

# 1 地域特性の把握

## 1 - 1 自然的特性

江戸川区は、豊かな河川と東京湾に面した、みどり豊かな水辺の都市であり、多くの親水公園、親水緑道を整備してきました。これらは、気温、熱環境にも良好な影響を与えており、気温の上昇を抑えつつ、自然環境に恵まれたまちづくりに役立っています。このことが豊かな動植物の生存を可能にしています。

### 1 - 1 - 1 位置・地勢

江戸川区は、区内全域が低地となっており、荒川・江戸川など河川の氾濫や蛇行によって形成された氾濫低地と、東京湾を由来とする海成の海岸低地とに分類されます。また、区の名前に示されるように江戸川をはじめ、荒川や中川、新中川、新川などの豊かな河川と東京湾に面した水辺の都市です。



図 1 - 1 江戸川区の位置

### 1 - 1 - 2 気象

#### (1) 気温

江戸川区の気温の状況は、図 1 - 2 に示すとおり区内 3 箇所で観測を行っています。過去 10 年間の観測の結果は表 1 - 1、表 1 - 2 および図 1 - 3 に示すとおりで、区内の平均気温は 15.8 ~ 16.5 となっています。区内の気温の状況に大きな相違はありませんが、鹿骨局が低く、南葛西局が高い傾向にあります。

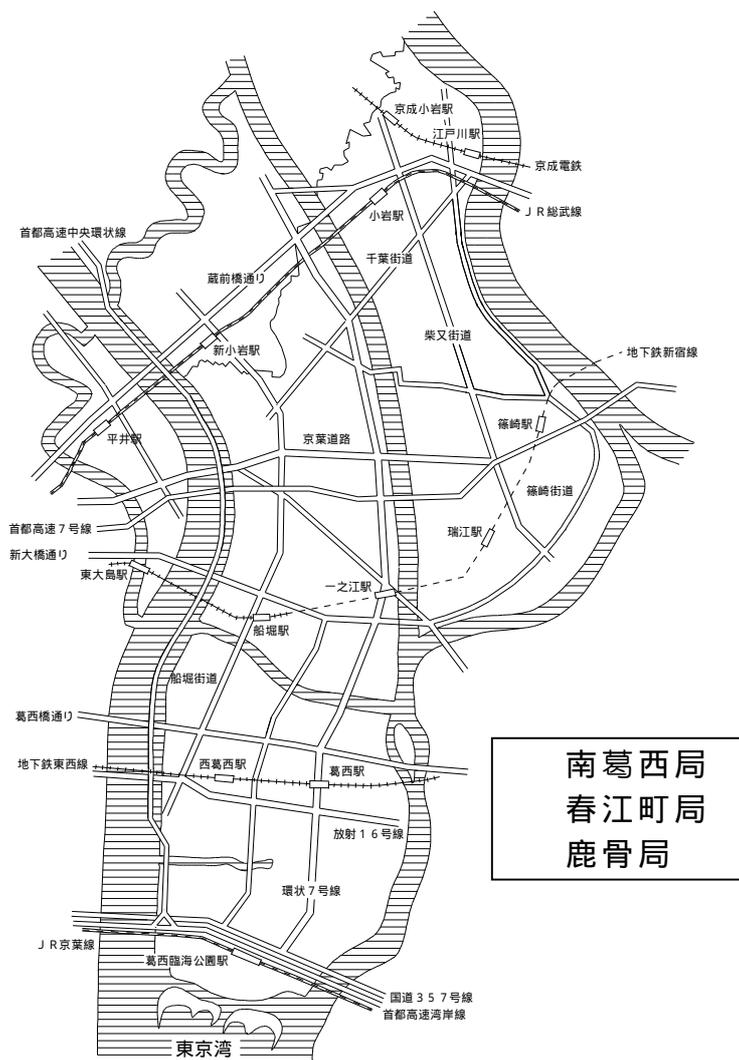


図 1 - 2 江戸川区内の気象観測位置

表 1 - 1 江戸川区の過去 10 年間の気温の推移

単位：

年度	南葛西局			春江町局			鹿骨局		
	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低
1996 年	15.8	36.4	-2.1	15.6	36.8	-2.5	15.4	38.4	-3.1
1997 年	16.2	34.8	-1.3	15.8	32.8	-0.6	15.8	35.1	-3.3
1998 年	17.1	37.5	-1.1	16.3	35.5	-1.9	15.8	36.5	-3.4
1999 年	17.9	36.8	-1.1	16.5	33.7	-1.4	16.3	34.5	-2.8
2000 年	16.5	35.0	-2.1	16.1	34.1	-2.8	15.9	35.0	-4.6
2001 年	17.6	39.9	-0.7	16.5	36.7	-0.6	16.0	37.7	-3.2
2002 年	15.7	35.7	-1.4	15.5	35.6	-1.3	15.1	36.0	-4.0
2003 年	16.0	34.1	-0.5	15.8	33.3	0.0	15.5	34.0	-1.4
2004 年	16.7	38.6	-0.4	16.5	38.0	-0.5	16.7	39.9	-1.1
2005 年	15.9	35.9	-1.9	15.8	35.6	-2.1	15.5	35.8	-2.9
平均	16.5	36.5	-1.3	16.0	35.2	-1.4	15.8	36.3	-3.0

資料:東京都環境局

表 1 - 2 江戸川区の過去 10 年間の月別平均気温

単位：

月	南葛西局	春江町局	鹿骨局
4月	15.1	14.6	14.5
5月	19.1	18.5	18.5
6月	22.5	22.0	21.9
7月	26.2	25.6	25.7
8月	27.3	26.7	26.7
9月	24.3	23.8	23.4
10月	18.8	18.3	17.7
11月	13.6	13.2	12.5
12月	8.3	8.1	7.4
1月	5.9	5.7	5.2
2月	6.7	6.4	6.1
3月	9.8	9.4	9.2

資料:東京都環境局

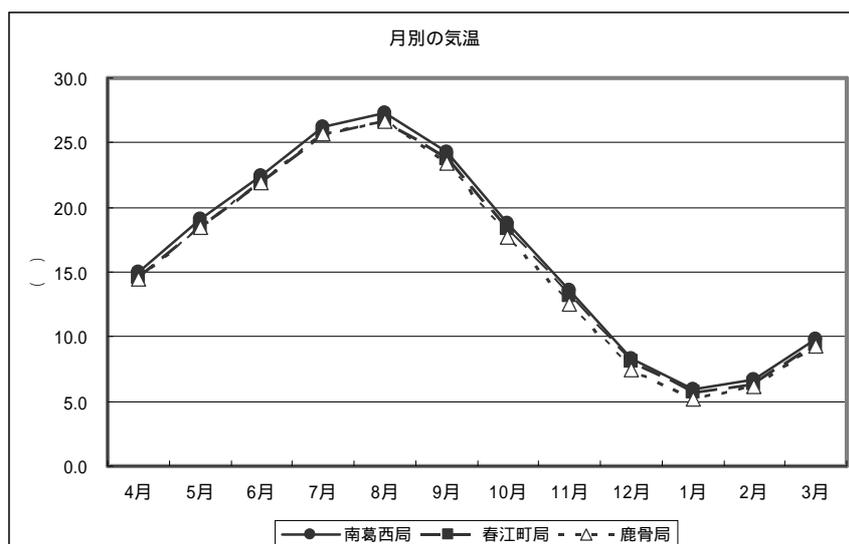


図 1 - 3 江戸川区の過去 10 年間の月別平均気温

## (2) 風向・風速

江戸川区内の風速の状況は、表 1 - 3 と図 1 - 4 に示すとおり、鹿骨局の風速が最も小さく、次いで春江局、南葛西局となっています。風速の変化の傾向はいずれの測定局ともに同様であり、秋に小さく、冬から春に大きい傾向にあります。

また、風向はいずれの測定局ともに南北方向への風向が卓越しています。

表 1 - 3 江戸川区過去 10 年間の月別平均風速

単位:m/s

月	南葛西局	春江町局	鹿骨局
4月	3.3	2.8	2.5
5月	3.1	2.6	2.3
6月	3.0	2.5	2.2
7月	3.3	2.7	2.4
8月	3.1	2.6	2.3
9月	3.0	2.5	2.2
10月	2.8	2.2	1.9
11月	2.8	2.1	1.8
12月	2.9	2.1	1.8
1月	3.3	2.3	2.0
2月	3.3	2.4	2.1
3月	3.4	2.7	2.4

資料:東京都環境局

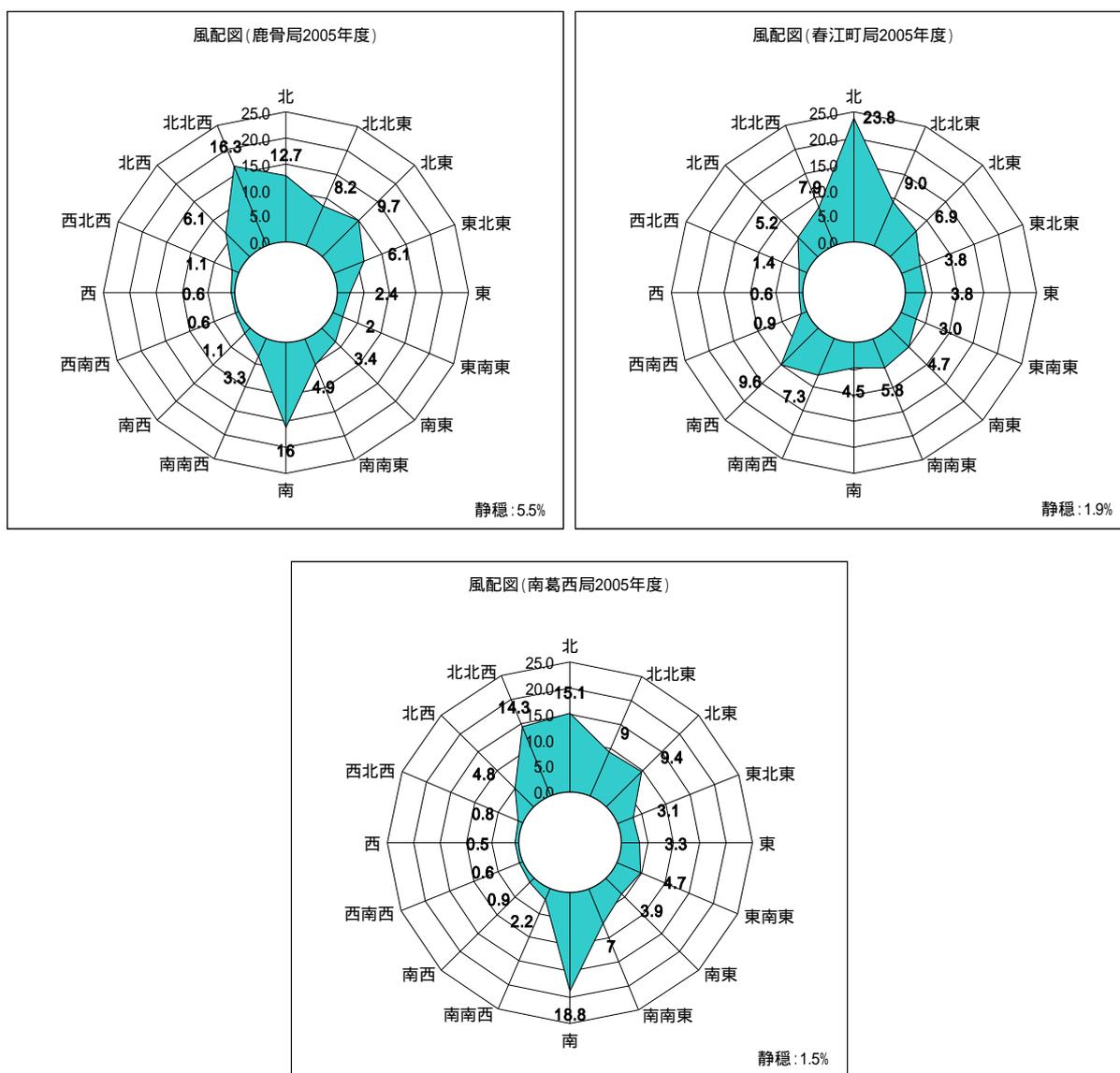


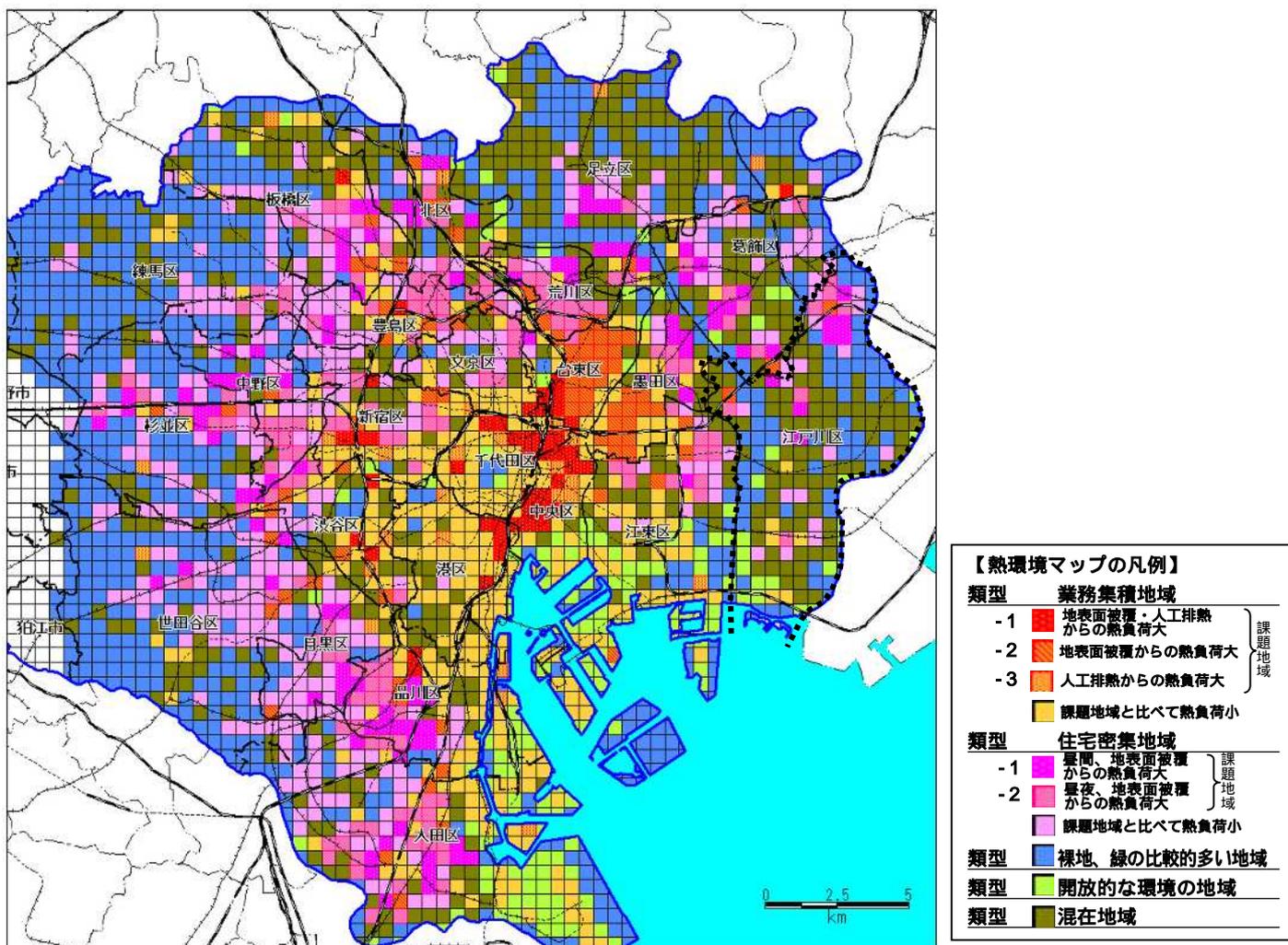
図 1 - 4 江戸川区の風配図

### (3) 熱環境

江戸川区を含む 23 区の熱環境は図 1 - 5 に示すとおりであり、千代田区、中央区、台東区などの業務集積地域（類型 1）品川区、大田区、杉並区（類型 2）などの住宅密集地域が今後熱環境を改善すべき課題地域としてあげられています。

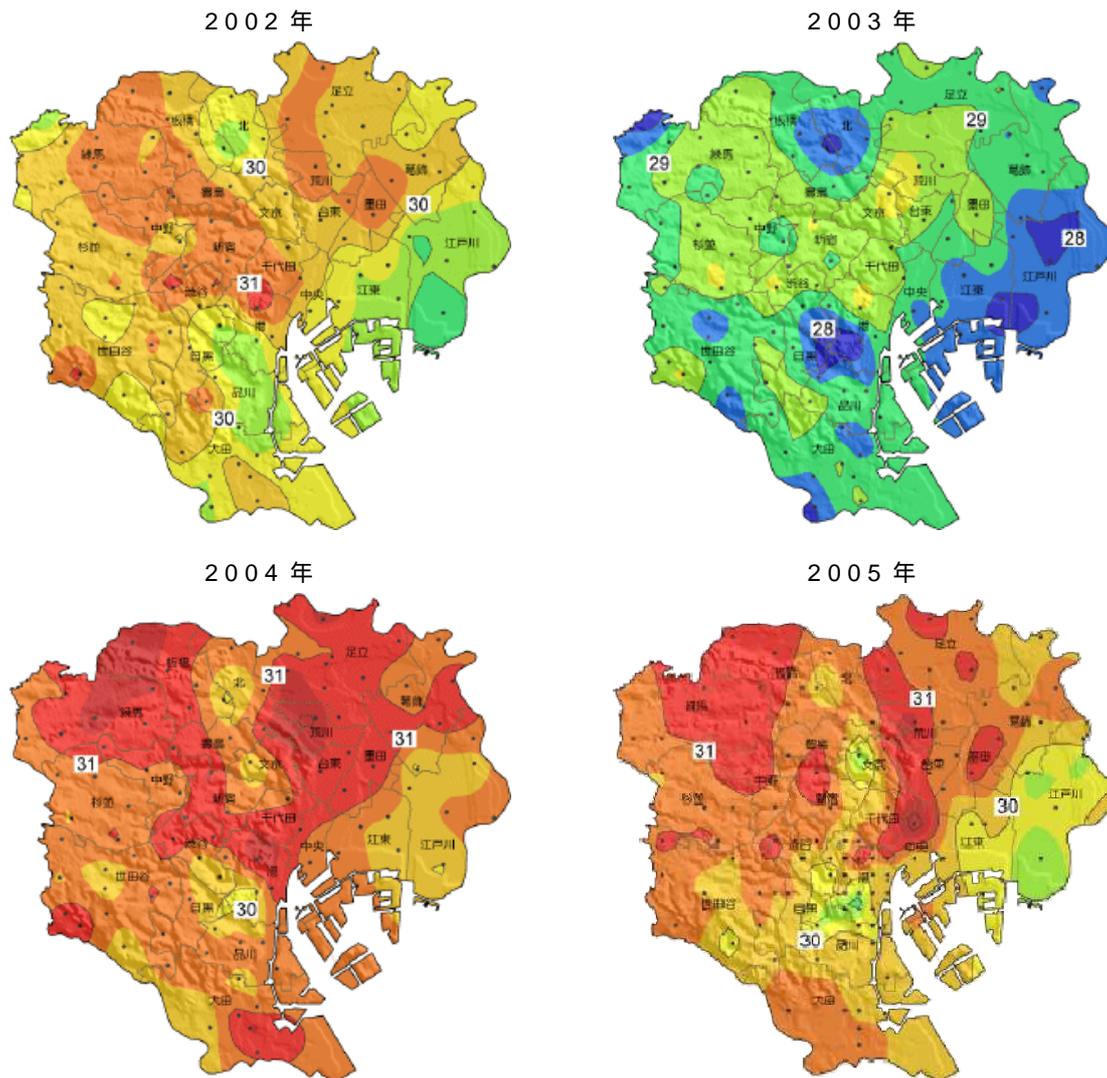
江戸川区では、小岩駅周辺、中央地区付近、葛西駅付近に熱環境を改善すべき課題地域が抽出されていますが、23 区内では熱環境の良好な地域と考えることができます。

このことは 2002（平成 14）年から 2005（平成 17）年の日最高気温の平均値を示した図 1 - 6 においても、江戸川区が 23 区内で最高気温の平均値の低い地域であることがわかります。



出典：東京都環境局（本マップの作成に際しては、独立行政法人建築研究所足永研究室が開発した都市気候予測システム UCSS により算出したデータ等を元に、各地域の特性を把握し、類型化を行っています。）

図 1 - 5 東京 23 区の熱環境マップ



出典：東京都環境科学研究所（東京都立大学と共同で設置した気象観測機器「METROS100」による測定に基づき作成）

図 1-6 23 区の日最高気温平均値（ ）の比較（各年 7 月 20 日～9 月 30 日）

### 1-1-3 自然環境

江戸川区には、江戸川や荒川の河川敷、葛西のなぎさ、区内を縦横に流れる親水公園や親水緑道などがあり、区民が身近に水や緑とふれあうことができるようになってきました。これらの水と緑は、私たちに憩いの場を提供するだけでなく、多くの野鳥や昆虫、魚類などの生息環境となっています。

また、このような緑や水辺は、ヒートアイランド現象による気温の上昇を緩和し、省エネルギー型のまちづくりにも役立っています。

江戸川区をとりまく水は「淡水」「汽水」「海水」域に分かれ、このことによって多くの生きものがすみ、都内でも数少ない水環境を形成しています。

このため、江戸川区では毎年水辺環境調査を実施しており、江戸川・旧江戸川、荒川、新中川・旧中川、新川と東京湾(葛西沖)について植物、鳥類、魚類・底生動物の分布・生息状況を記録しています。

植物では、セイタカアワダチソウやオオアレチノギク、シロツメクサなどの帰化種や荒れ地に侵入する植物が多く確認されています。一方で湿地性の

ミゾコウジュやウラギク、タコノアシなどの希少な在来種も河川敷の自然地に残っています。

江戸川区は河口域のため、餌を求めて飛来する野鳥の立ち寄り先になっています。このため、年間を通じ50種以上の野鳥が見られます。冬季に葛西沖で見られる数万羽のスズガモの群れは、この区域に豊富な餌があることを示しています。街中ではスズメやムクドリが年間を通じて多く確認されています。希少な鳥類としては、チョウゲンボウやホオジロガモ、セイタカシギ、コアジサシなどを確認しています。魚類・底生動物では、江戸川や新中川でマハゼ、マルタやテナガエビ、ケフサイソガニなどが見られるほか、希少種でもあるウナギやエドハゼ、数は少ないながらメダカも記録されています。

さらに葛西海浜公園・東なぎさでは一時絶滅したと思われていたトビハゼが群集で再発見され、北限の生息地として広く知られるようになりました。沖合ではカタクチイワシ、スズキ、コノシロなども確認されています。

#### 1-1-4 公園・緑地

江戸川区では、区民の憩いの場として、また、ヒートアイランド対策や地球温暖化防止の観点から、公園や児童遊園などの「緑の拠点」整備を進めています。2007(平成19)年4月1日現在で、区民1人あたり5.13m<sup>2</sup>の公園が整備されています。2004(平成16)年3月31日現在の東京23区区民一人当たりの公園・緑地面積は2.89m<sup>2</sup>であり、江戸川区の整備水準はこれを上回っています。

表1-4 江戸川区の区民1人あたりの公園面積(2007(平成19)年4月1日現在)

区分	区民1人あたり面積(m <sup>2</sup> )
陸域	5.13
陸域+海域	11.32

注)人口 660,914 人

資料：江戸川区

表1-5 江戸川区の種類別公園数と公園面積(2007(平成19)年4月1日現在)

種別	公園数	面積(m <sup>2</sup> )
区立公園	158	1,051,871.16
河川敷公園 <sup>注1)</sup>	9	781,747.34
区立児童遊園	232	195,530.16
区立広場	28	73,505.31
区立公園・児童遊園・広場	427	2,102,653.97
都立公園 <sup>注2)</sup>	5	5,431,087.38
合計	432	7,533,741.35

注1)小岩緑地、篠崎緑地、ポニーランド、小岩菖蒲園、瑞江緑地、一之江緑地、新中川右岸緑地、新中川左岸緑地、平井七丁目北部緑地(荒川河川敷は公園に含む)

注2)葛西海浜公園 4,117,473.01 m<sup>2</sup>を含む。

資料：江戸川区

表 1 - 6 江戸川区の親水公園・親水緑道

親水公園 5 路線 9,610m (公園 5ヶ所 面積 198,456.06m <sup>2</sup> )
親水緑道 18 路線 16,780m (計画 18 路線 総延長 17,680m)

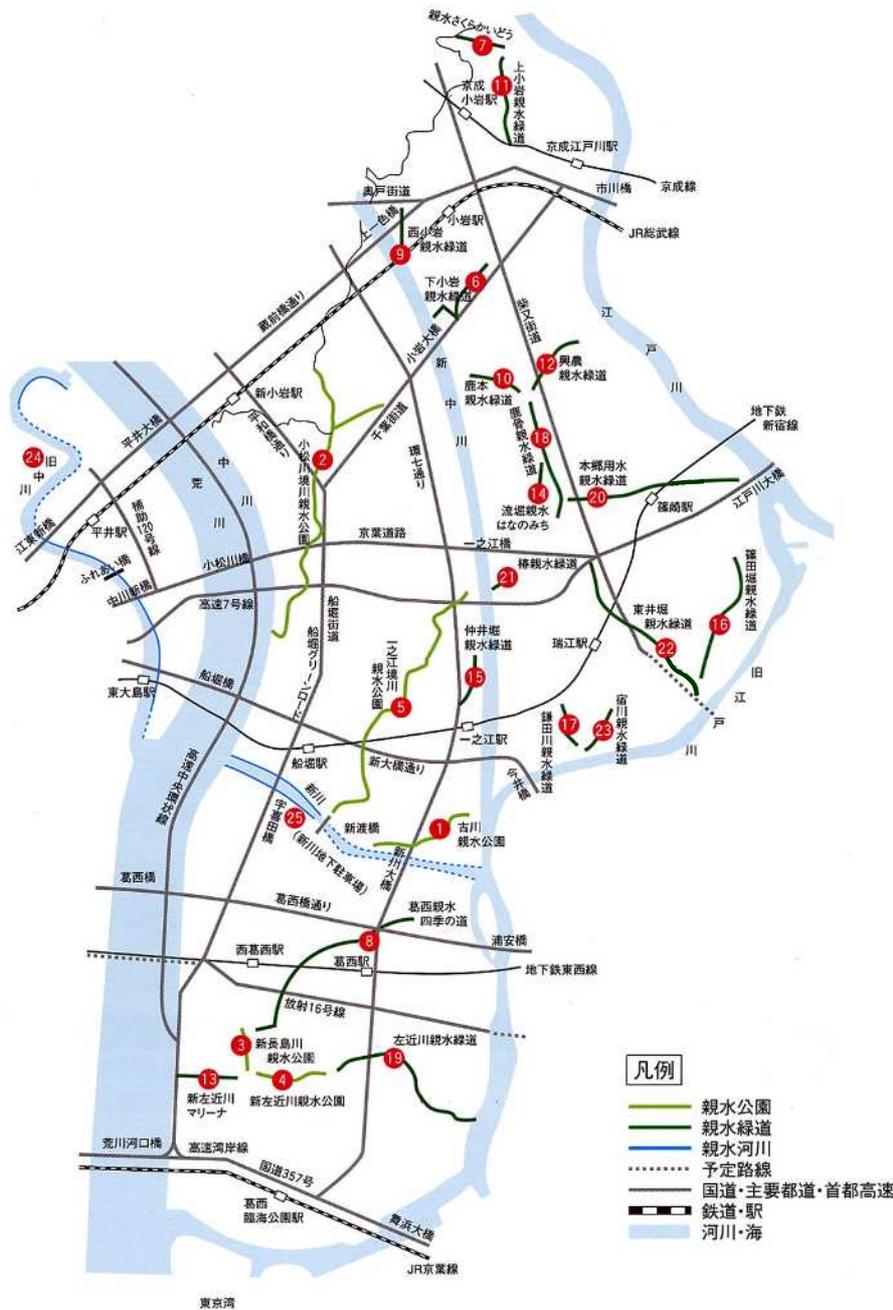


図 1 - 7 江戸川区の親水公園・親水緑道位置図

さらに江戸川区では、親水河川整備を推進し、地域の憩いの場となるような利用を進め、親水公園や親水緑道の特色を活かし、水辺空間のネットワーク化を進めています。

## 1-2 社会的特性

江戸川区の人口と世帯数は、戦後の一時期を除いて増えています。特に、世帯数の伸びが大きく、世帯あたりの人員が減っていることから核家族化が進んでいると考えられます。産業面では第2次産業が減少し、第3次産業が増加しています。また、土地利用については、住宅用地がもっとも多く、今後も増加傾向にあります。こうした中で、江戸川区では、環境をよくする運動をはじめとして多くの区民参加の環境保全活動が行われています。これらの活動は、江戸川区の方針である共育・協働を担うと同時に、活力あるまちづくりにも貢献しています。

### 1-2-1 人口・世帯数

江戸川区の人口と世帯数は、戦中・戦後の一時期を除いて一貫して増加の傾向にあります。1925(大正14)年から80年後の2005(平成17)年には人口が約10倍、世帯数が約20倍の増加となっています。世帯あたりの人員数は、この間減少の傾向にあり、2005(平成17)年には2.32人/世帯と核家族化が進んでいると考えられます。

表1-7 江戸川区の人口と世帯数の推移(各年10月1日現在)

年次	世帯数 (世帯)	人口 (人)	世帯あたり人員 (人/世帯)
大正14年(1925年)	13,973	64,530	4.62
昭和5年(1930年)	21,185	96,971	4.58
昭和10年(1935年)	27,029	129,230	4.78
昭和15年(1940年)	37,865	177,304	4.68
昭和22年(1945年)	41,077	173,422	4.22
昭和25年(1950年)	46,075	208,861	4.53
昭和30年(1955年)	55,047	254,771	4.63
昭和35年(1960年)	76,239	316,593	4.15
昭和40年(1965年)	110,630	405,139	3.66
昭和45年(1970年)	131,873	446,758	3.39
昭和50年(1975年)	149,729	473,656	3.16
昭和55年(1980年)	166,142	495,231	2.98
昭和60年(1985年)	176,493	514,812	2.92
平成2年(1990年)	211,472	565,939	2.68
平成7年(1995年)	234,550	589,414	2.51
平成12年(2000年)	259,040	619,953	2.39
平成17年(2005年)	281,989	653,944	2.32

資料：平成18年版統計江戸川(国勢調査)

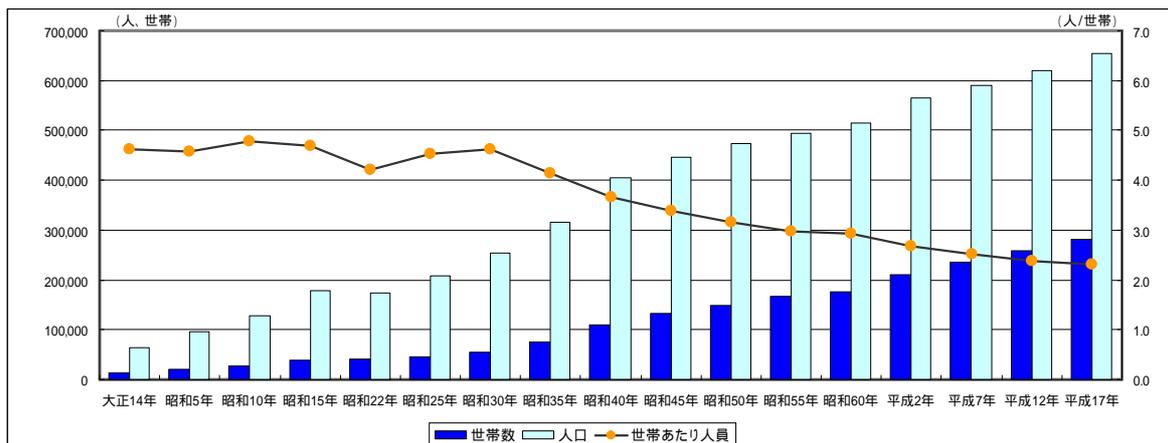


図 1 - 8 江戸川区の人口と世帯数の推移

## 1-2-2 産業

### (1) 産業構造

江戸川区の2001(平成13)年の産業別従業者数の総数は約19万人となっており、そのうち第3次産業の従業者数が従業者全体の75%を占めています。産業中分類ごとにみると、卸売・小売業、飲食店の従業者数が約6万人と最も多く、次いでサービス業、製造業、運輸・通信業となっています。

本区の従業者数からみる産業構造は、製造業などの第二次産業が縮小し、サービス業などの増加により第三次産業の割合が増加の傾向にあります。

表 1 - 8 江戸川区の産業別従業者数

区分		1991(平成3)年 (人)	2001(平成13)年 (人)
第1次	農林漁業	87	160
	小計	87	160
第2次	鉱業	-	35
	建設業	18,828	16,877
	製造業	44,981	29,596
	小計	63,809	46,550
第3次	電気・ガス・熱供給・水道業	782	617
	運輸・通信業	22,960	19,293
	卸売・小売業, 飲食店	57,118	61,239
	金融・保険業	5,461	3,749
	不動産業	3,711	3,625
	サービス業	40,087	49,044
	公務	3,914	4,002
	小計	134,033	141,569
合計		197,929	188,279

注) 平成3年は7月1日現在、平成13年は10月1日現在

資料: 1991(平成3)年のデータ 平成18年版統計江戸川

2001(平成13)年のデータ 東京都統計年鑑 平成17年 事業者

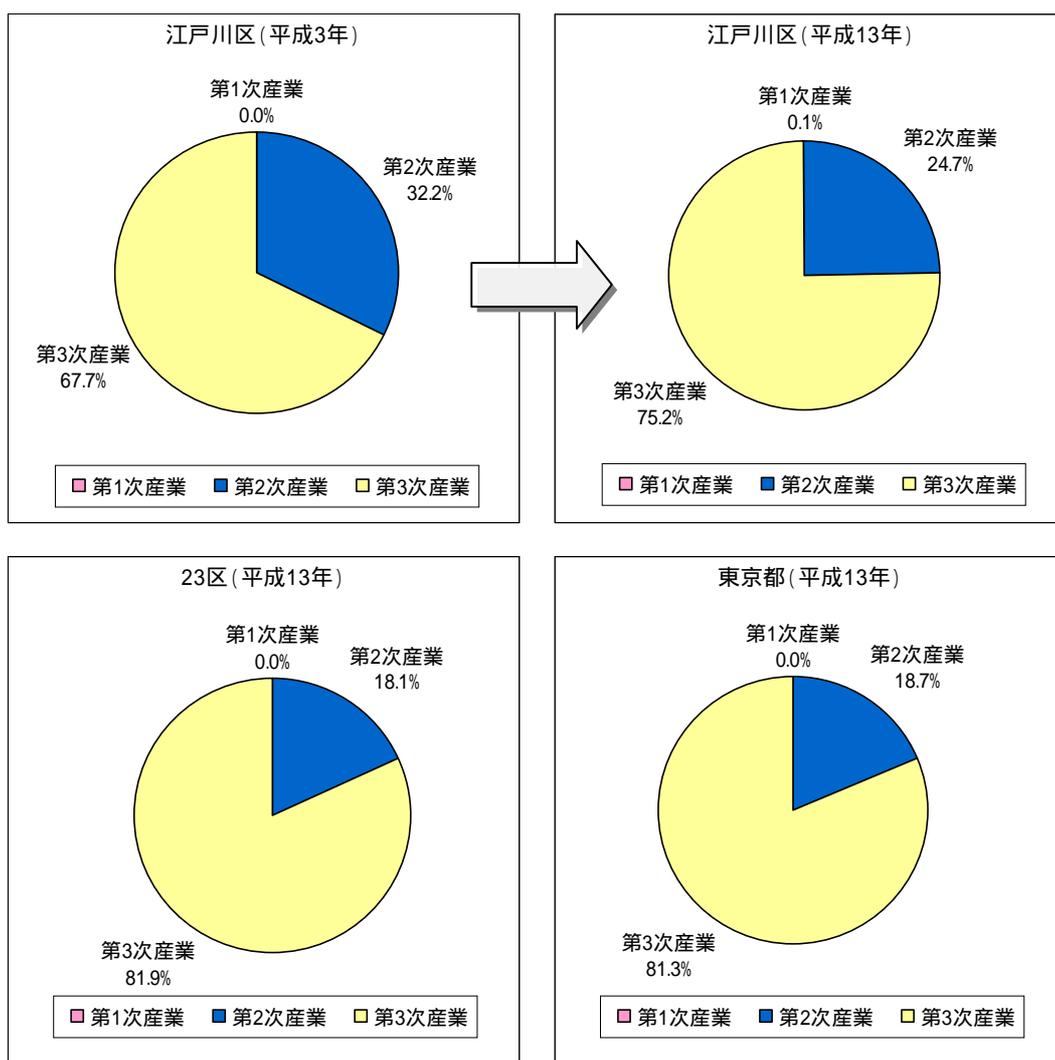


図 1 - 9 江戸川区、23 区および東京都の産業別従業者数の内訳

## (2) 製造業

江戸川区の製造業の事業所数は 1990(平成 2)年以降減少の傾向にあり、1990(平成 2)年に約 5 千事業所であったものが 2003(平成 15)年には約 3 千事業所となっています。製造業の従業者数や製造品出荷額等もこの間減少の傾向にあり、従業者数は 3 万 6 千人から 2 万人に、製造品出荷額等は 6 千 5 百億円から 3 千 3 百億円になっています。

表 1 - 9 江戸川区の製造業の事業者数、従業者数、製造品出荷額等

年次	事業所数 (事業所)	従業者数 (人)	製造品出荷額等 (万円)
1990 年 (平成 2 年)	5,039	36,020	65,442,409
1993 年 (平成 5 年)	4,547	31,935	55,562,368
1995 年 (平成 7 年)	4,206	28,456	50,304,597
1998 年 (平成 10 年)	4,550	28,408	48,788,590
2000 年 (平成 12 年)	4,057	24,808	41,413,258
2003 年 (平成 15 年)	3,280	20,379	33,284,189

資料：平成 18 年版統計江戸川

### (3) 商業

江戸川区の2002(平成14)年の卸売・小売業の事業所数は約5千7百店、年間販売額は1兆774億円と、1991(平成3)年と比べてそれぞれ18.0%、20.2%減少していますが、従業者数は9.5%増加して約4万人となっています。事業所数、年間販売額の減少は卸売業でより顕著になっています。

表1-10 江戸川区の卸売・小売業

年次	総数			卸売業			小売業		
	事業所数 (店)	従業者 (人)	年間 販売額 (百万円)	事業所数 (店)	従業者 (人)	年間 販売額 (百万円)	事業所数 (店)	従業者 (人)	年間 販売額 (百万円)
1991年(平成3年)	6,977	36,758	1,350,919	1,708	12,987	851,140	5,269	23,771	499,780
1994年(平成6年)	6,395	37,573	1,205,776	1,536	12,936	710,169	4,859	24,637	495,607
1997年(平成9年)	5,838	33,740	1,039,165	1,293	9,934	572,656	4,545	23,806	466,509
2002年(平成14年)	5,723	40,239	1,077,454	1,373	12,224	608,348	4,350	28,015	469,105

注) 平成3、6年は7月1日現在、平成9、14年は6月1日現在

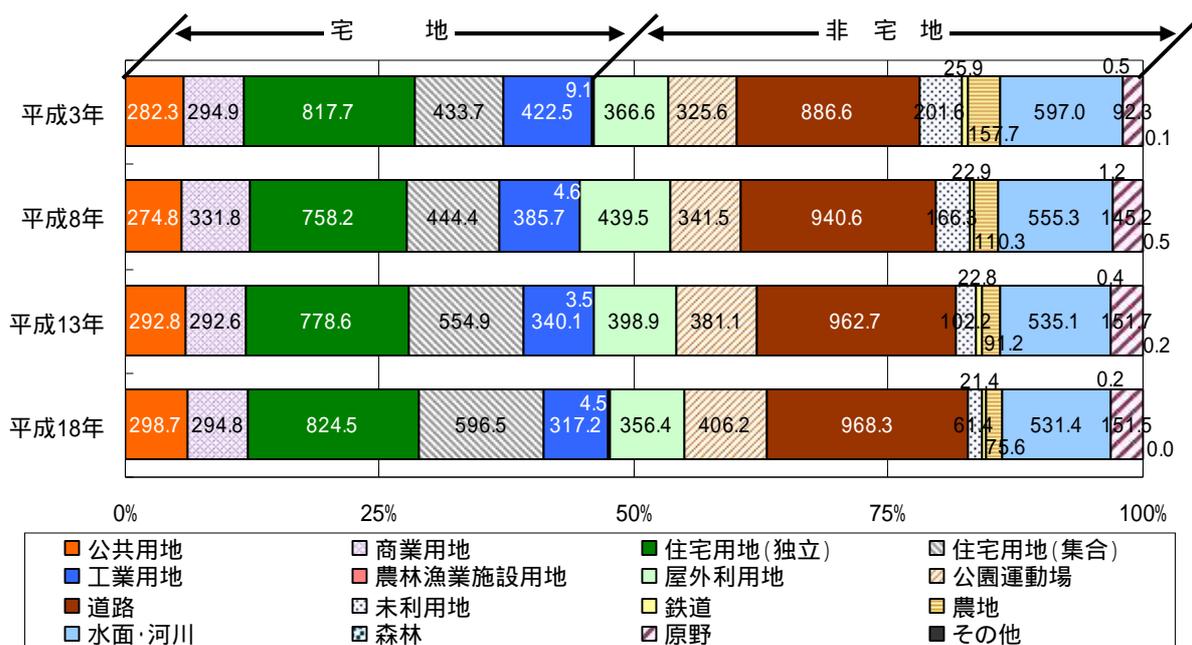
資料：平成18年版統計江戸川

### 1-2-3 土地利用・都市計画

#### (1) 土地利用の状況

2006(平成18)年の江戸川区の土地利用は、住宅用地(独立+集合)が約1,400haで最も多く全体の28.9%を占めています。住宅用地の推移も増加傾向にあり、1991(平成3)年に対して13.6%増加しています。

一方、工業用地は減少傾向にあり、1991(平成3)年から2006(平成18)年の間に24.9%減少しました。非宅地では、未利用地と農地が1991(平成3)年比でそれぞれ-69.5%、-52.1%と半分以下に減少しています。



グラフ中の数値は面積(ha)

資料：江戸川区の土地利用(平成18年度土地利用現況調査)

図1-10 江戸川区の土地利用の推移

(2) 用途地域の指定状況

江戸川区内の用途地域の指定状況も住居系の地域の指定が最も多く、約2,900haと区全体面積の59.7%を占めています。その他、小岩駅や平井駅、葛西駅など区内主要駅周辺などに指定している商業系地域が約440haで区全体面積の9.0%を占めており、臨海部や旧江戸川沿岸、中央地区などに指定している工業系地域が約800haで16.3%を占めています。

表1-11 江戸川区の用途地域の指定状況(2006(平成18)年4月1日現在)

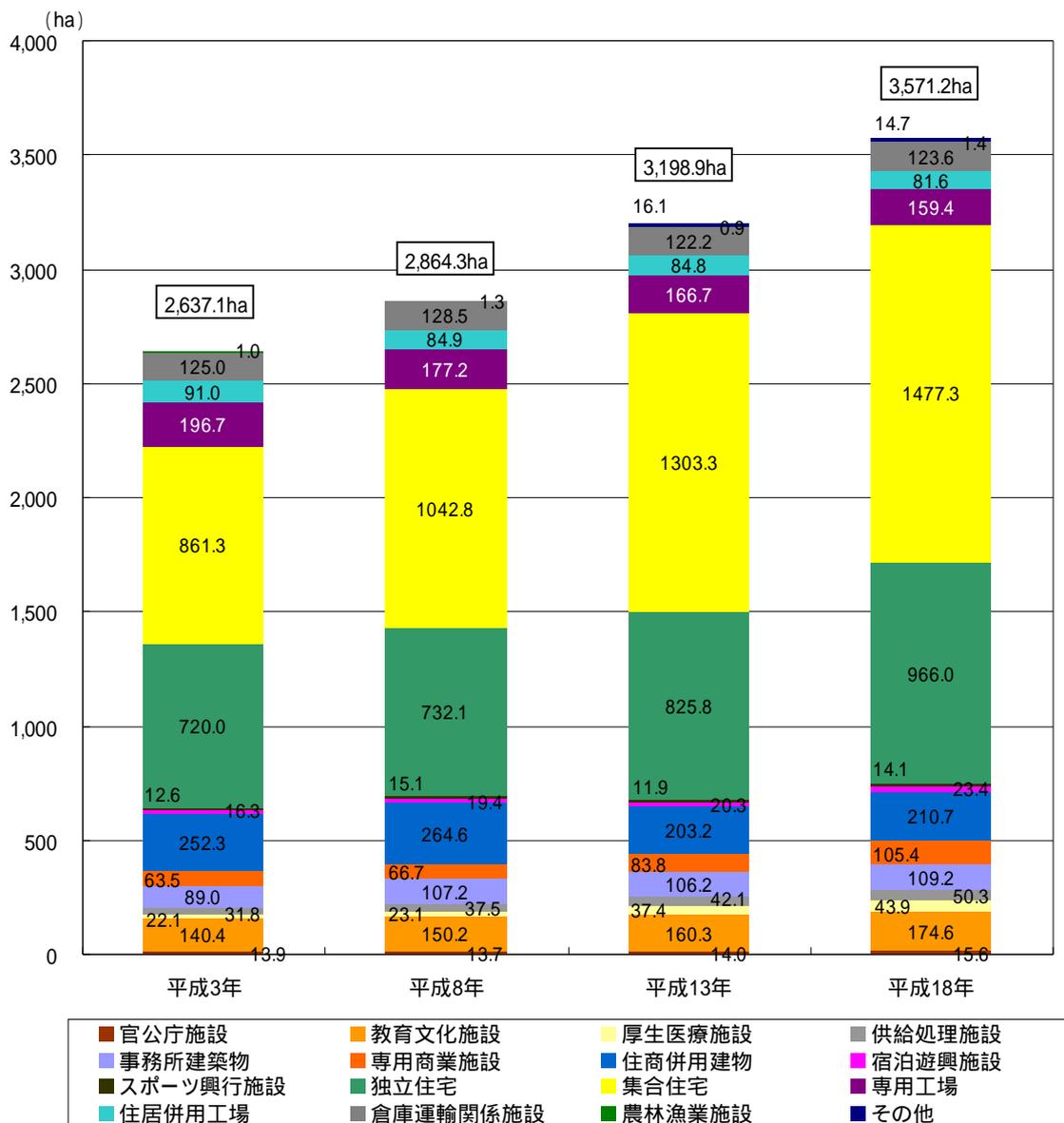
用途地域		面積(ha)	構成比
総数		4,908.6	100.0
指定面積		4,174.6	85.0
住居系	第一種低層住専	70.8	1.4
	第一種中高層住専	1,325.1	27.0
	第二種中高層住専	58.4	1.2
	第一種住居	1,475.3	30.1
	計	2,929.6	59.7
商業系	近隣商業	291.7	5.9
	商業	152.1	3.1
	計	443.8	9.0
工業系	準工業	683.9	13.9
	工業	117.3	2.4
	計	801.2	16.3
無指定面積		734.0	15.0

資料：平成18年版統計江戸川

### (3) 延床面積の状況

区内の建物の延床面積は、1991(平成3)年から2006(平成18)年にかけて約35%増加しています。

2006(平成18)年の建物利用分類では、集合住宅が最も多く1,477.3haで全体の41.4%、次いで独立住宅が966.0haで全体の27.0%を占めており、この2区分で全体の約70%を占めています。また、この2区分は1991(平成3)年比で集合住宅が71.5%、独立住宅が34.2%の増加となっています。



資料：江戸川区の土地利用（平成18年度土地利用現況調査）

図1-1-1 建物利用分類ごとの延床面積の推移

## 1-2-4 交通

### (1) 鉄道

区内の鉄道網は、北から京成電鉄、JR総武線、地下鉄都営新宿線、東京メトロ東西線、JR京葉線が、区内を東西に走っています。いずれも東京都心と千葉方面を東西に結んでいる路線で、これら鉄道網の主な駅周辺は、小売業や飲食店等の集積するエリアとなっています。

江戸川区の鉄道利用状況は、JRが1日あたり約4万人、京成電鉄が約1万人、地下鉄(東京メトロ・都営)が約9万人となっています。経年的には平成13年度(2001年度)以降都営地下鉄の利用者が増加の傾向にあり、1日あたり約7.5万人から約9万人に増加しています。

表 1-1 2 江戸川区の鉄道事業者別乗降車人員(1日平均)

単位:人

年度	JR	京成電鉄	東京メトロ	都営地下鉄	計
平成3年度(1991年度)	39,314	11,585	58,431	14,779	124,109
平成13年度(2001年度)	38,749	8,233	68,708	17,158	132,848
平成14年度(2002年度)	38,707	8,019	68,586	17,792	133,104
平成15年度(2003年度)	38,851	7,995	69,034	18,228	134,108
平成16年度(2004年度)	38,329	7,813	69,005	18,472	133,619
江戸川区内の駅	平井、小岩、葛西臨海公園	京成小岩、江戸川	葛西、西葛西	東大島、船堀、一之江、瑞江、篠崎	

資料：温室効果ガス排出量算定手法の標準化(2006(平成18)年度)

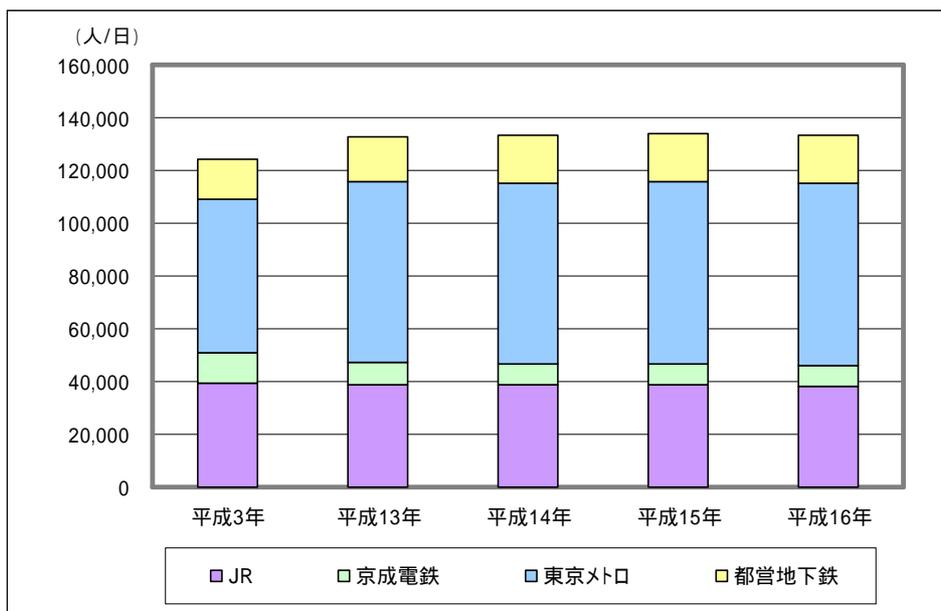


図 1-1 2 江戸川区の鉄道乗車人員(1日平均)の推移

(2) 道路・自動車

江戸川区においては、区の中央を東西方向に国道14号線（京葉道路）が走っています。これに並行して北から蔵前橋通り、新大橋通り、葛西橋通り等の幹線道路や首都高速7号小松川線、首都高速湾岸線等の高速道路が通っています。南北方向には、中央環状線、環状7号線、船堀街道（平和橋通り）が走っています。

また、江戸川区内の道路の総延長は1,076km、総面積は9km<sup>2</sup>となっています。

江戸川区の自動車保有台数は、2002（平成14）年以降ほぼ横ばいであり、2002（平成14）年から2006（平成18）年にかけて0.7%減少しています。軽自動車がこの間5,000台程度増加した以外、貨物と乗用車ともに減少の傾向にあります。

表1-13 江戸川区の自動車保有台数

年次	計	貨物				乗合	乗用車			特種用途	大型特殊	軽自動車
		総数	普通	小型	被けん引		総数	普通	小型			
2002(平成14)年	231,584	41,453	17,266	23,097	1,090	815	150,763	68,809	81,954	8,120	1,844	28,589
2003(平成15)年	230,692	39,721	16,691	21,972	1,058	832	150,471	69,715	80,756	7,797	1,822	30,049
2004(平成16)年	229,130	37,919	16,210	20,663	1,046	793	149,648	72,138	77,510	7,294	1,804	31,672
2005(平成17)年	229,736	37,083	15,870	20,144	1,069	762	149,809	73,552	76,257	6,975	1,802	33,305
2006(平成18)年	229,853	35,977	15,131	19,726	1,120	775	149,883	74,572	75,311	6,579	1,777	34,862

注) 軽自動車のみ各年4月1日現在、その他は各年3月31日現在

資料：平成18年版統計江戸川

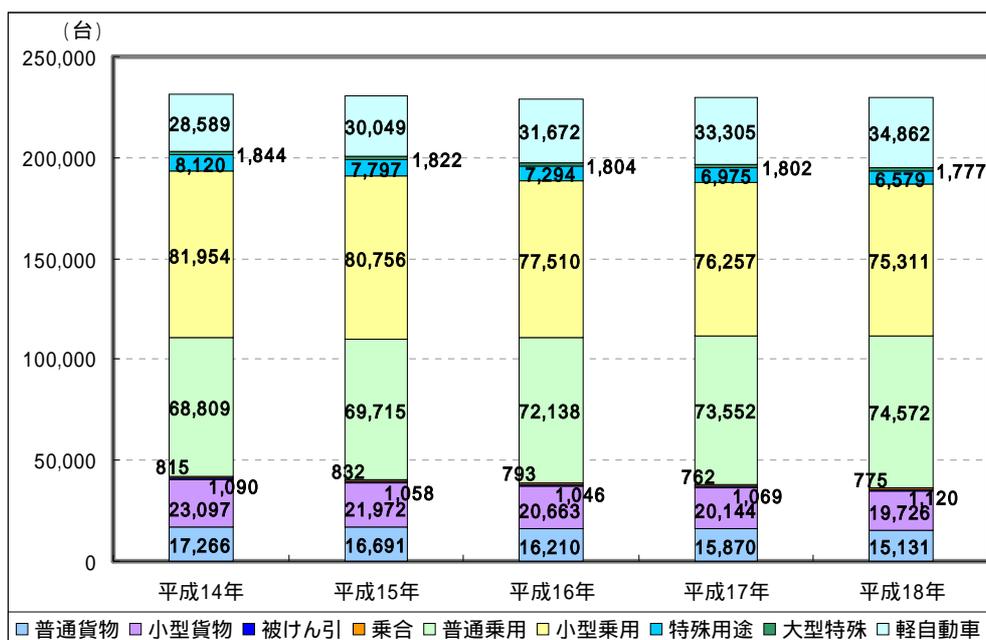


図1-13 江戸川区の自動車保有台数

### 1-2-5 ごみ処理

江戸川区のごみ収集量は、1997(平成9)年度の約31万トンから約20万トンに減少しています。内訳としては、可燃ごみが約3.5万トン、不燃ごみが約1万トン、粗大ごみが約500トン、持込ごみが約6.5万トンとすべての区分のごみが減少しています。

表1-14 江戸川区のごみ収集量

単位:t

年度	総数	収集量			持込
		可燃	不燃	粗大	
平成9年度(1997年度)	310,786	154,825	46,164	4,385	105,412
平成10年度(1998年度)	304,131	153,349	46,140	4,442	100,200
平成11年度(1999年度)	287,288	136,469	38,067	4,032	108,720
平成12年度(2000年度)	206,751	124,834	33,915	4,453	43,549
平成13年度(2001年度)	209,761	123,991	34,266	3,588	47,916
平成14年度(2002年度)	203,026	122,652	35,013	3,697	41,664
平成15年度(2003年度)	203,552	123,670	35,642	3,681	40,559
平成16年度(2004年度)	201,780	119,954	37,782	3,707	40,337
平成17年度(2005年度)	198,184	119,750	35,277	3,823	39,334



備考)リデュース・リユース・リサイクル推進協議会

【3R キャンペーンマーク】

### 1-2-6 新エネルギーの導入

江戸川区の家庭用の太陽光発電の導入実績は表1-15および図1-14に示すとおり、1994(平成6)年度以降の累計で496.99kW(138件)となっています。導入の最も多かった2004(平成16)年度で88.85kWの導入がありました。最近の2005(平成17)年度では38.78kWと導入量は減少しています。

家庭用のほかに、区の施設など6施設に68.8kWの産業用太陽光発電システムが設置されています。

これをあわせると江戸川区には、565.79kWの太陽光発電システムが設置されていることとなります。

東京都での太陽光発電システムの過去10年間の発電実績は、システム1kWあたり年間935.61kWhなので江戸川区内にある太陽光発電システムによる2005年度の発電量は、529,359kWhと推計されます。電力の温室効果ガス排出係数を0.38kg/kWhとすると年間約200トンの温室効果ガスの削減に寄与していることとなります。

表1-15 江戸川区の家庭用太陽光発電システムの導入実績(設備容量)

導入量及び累計の単位: kW

	1994年	1995年	1996年	1997年	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年
件数	2	1	2	6	8	12	21	7	16	24	27	12
導入量	6.30	3.10	8.63	35.72	38.46	38.49	76.53	23.47	56.78	81.88	88.85	38.78
累計	6.30	9.40	18.03	53.75	92.21	130.70	207.23	230.70	287.48	369.36	458.21	496.99

資料: 新エネルギー財団 HP

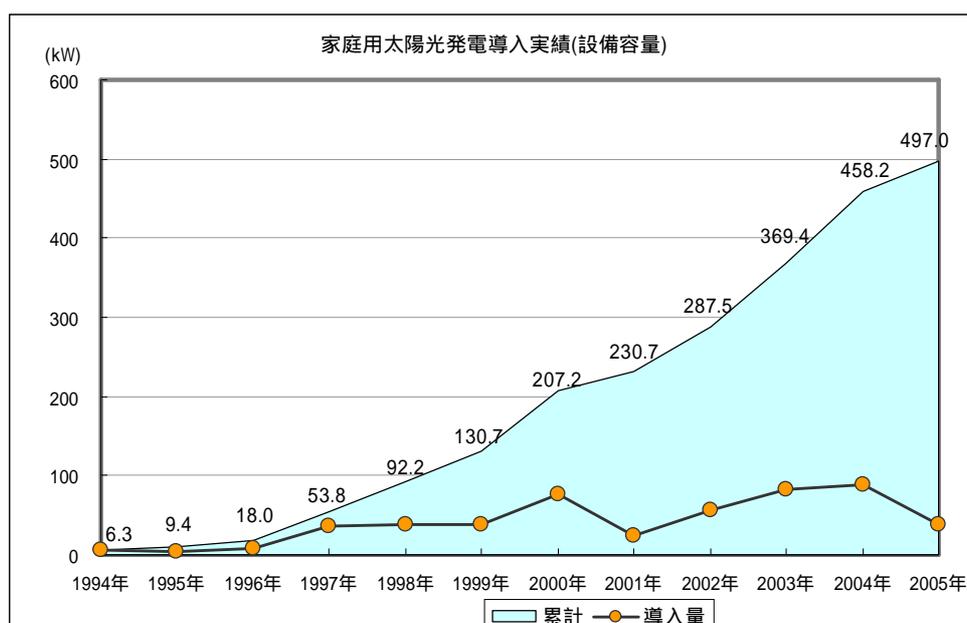


図1-14 江戸川区の家庭用太陽光発電システムの導入実績(設備容量)

### 1-2-7 エネルギー管理指定工場

「省エネルギー法」では、地球温暖化対策の推進のために、エネルギー消費量の多い工場をエネルギー管理指定工場として指定し、エネルギー使用に関する中長期計画の提出や、エネルギー使用状態等の定期報告を義務づけています。

エネルギー管理指定工場には、原油換算のエネルギー使用量 3,000ki/年以上の第一種と、同じくエネルギー使用量 1,500ki/年以上の第二種の区分があります。

江戸川区では、第一種エネルギー管理指定工場が 8 事業所（製造業 4 事業所、非製造業 4 事業所）、第二種エネルギー管理指定工場が 8 事業所（製造業 4 事業所、非製造業 4 事業所）となっています。

表 1-16 エネルギー管理指定工場

指定区分	製造業	非製造業
一種	和田製糖(株) 江戸川工場	東京都 下水道局 葛西水再生センター
	月島食品工業(株) 東京工場	(株)エヌ・ティ・ティ・データ NTTDATA 葛西テクノビル
	王子板紙(株) 江戸川工場	(株)イトーヨーカ堂 イトーヨーカドー葛西店
	第一製薬(株) 東京研究開発センター	日本私立学校振興・共済事業団 東京臨海病院
二種	東京油脂工業(株) 東京工場	日本自動車ターミナル(株) 葛西トラックターミナル
	王子パッケージング(株) 東京事業所	イオン(株) ジャスコ葛西店
	ライオン(株) 東京工場	(株)イトーヨーカ堂 イトーヨーカドー小岩店
	世紀東急工業(株) 妙見島混合所	(株)アターブル松屋 タワーホール船堀

平成 19 年 3 月 31 日現在

資料：経済産業省資源エネルギー庁HP

## 1-2-8 環境保全活動

### (1) 区民・団体の環境保全活動

江戸川区では、NPO 法人として 2003（平成 15）年度に設立した「えどがわエコセンター」を中心に環境保全に関する取り組みが進められています。えどがわエコセンターは、江戸川区という地域社会を舞台として区民、事業者、行政が連携・協働するという新たなパートナーシップのもと、多くの人々に環境にやさしい生活を広げるための活動を目的とする組織です。えどがわエコセンターを拠点として、世代や立場を超え多くの人々が環境に貢献する活動を繰り広げ、「環境にやさしいまち江戸川区 = エコタウンえどがわ」の実現を目指しています。

えどがわエコセンターには区内外の多くの環境団体も集まっています。また、学校や商店街も重要な環境活動の拠点なので、相互に連携し、年間を通じ、さまざまな事業を展開しています。

「もったいない運動えどがわ」は、区とえどがわエコセンターが協働で立ち上げた区民運動で、「地球温暖化の防止」と「ごみ減量」どちらにも通ずる「もったいない」を合言葉に、身のまわりから省エネルギー・省資源・3R を実践する人々の輪を広げています。

えどがわエコセンターではこのほか、「環境フェア」への参加や「小学校環境学習支援事業」、「えどがわ自然学校」などの環境啓発・環境学習に関する事業も実施しています。



【パンフレット  
「もったいない運動えどがわのすすめ」】

表 1-17 江戸川区の環境学習関連事業（2006（平成 18）年度）

No.	名称	概要	実施頻度・規模の目安	実施主体
1	環境フェア	今日的な環境問題について、クイズやゲームを通してわかりやすく来場者に紹介する、体験型のイベント。	年 1 回 来場者数 45,000 人	江戸川区
2	リサイクルリーダー講習会	ごみ減量、リサイクル活動での地域の核となる人材を養成する講座。見学会、講演会を中心に実施。	全 6 回 区内在住、在勤者 50 人程度	江戸川区
3	江戸川区水辺の活動交流会	水辺をメインフィールドとして活動する、スポーツ団体、環境団体、学校等と行政が一堂に会し、日頃の活動の成果を区民に発表するイベント。	年 1 回 3 日間。 17 年度は 1,500 人参加。	江戸川区
4	夏休み親子講座 樹木観察と樹名板づくり	樹木の特徴などの説明を聞いたあとで、自分の好きな木の樹名板を作って親水公園の木に取り付け。	年 1 回参加自由 小学校 3 年生以上のお子さんとその保護者 20 組	(財)江戸川区環境促進事業団
5	夏休み親子講座 竹細工教室	竹を使って水鉄砲や竹とんぼ・はしなどを作って遊ぶ。	年 1 回参加自由 小学校 3 年生以上のお子さんとその保護者 20 組 費用 300 円	(財)江戸川区環境促進事業団
6	夏休み親子講座 親水公園ものしりツアー	江戸川区が世界で最初に作った親水公園について、普段見られない浄水場見学など流れのしくみや特徴などをわかりやすく説明。バスで親水公園を案内。	年 1 回参加自由 小学校 3 年生以上のお子さんとその保護者 20 組	(財)江戸川区環境促進事業団

No.	名称	概要	実施頻度・規模の目安	実施主体
7	一之江境川親水公園 自然観察会	一之江境川親水公園に生育・生息する動植物の自然観察会を通じて、子どもたちを中心に地域全体に親水公園を愛する心が広がるように啓発。	年1回 近隣町会約150人	(財)江戸川区環境促進事業団
8	一之江境川親水公園 鳴く虫の観察会	一之江境川親水公園に生息する昆虫などの観察会を通じて、子どもたちを中心に地域全体に親水公園を愛する心が広がるように啓発。	年1回 近隣町会約50人	(財)江戸川区環境促進事業団
9	小学校環境学習支援事業	グリーンプラン推進校数校を選定し、年間を通じた環境学習をモデル実施。	推進校5校	NPO法人えどがわエコセンター
10	えどがわ自然学校	区内外の自然を活用して行う体験プログラム。	日帰り 年15回程度 宿泊 年1回	NPO法人えどがわエコセンター
11	環境学習リーダー 養成講座 ・チャレンジ講座	身近な環境問題に取り組む人材をリーダーとして養成する連続講座。環境問題についての講習・体験学習を行い、環境リーダーを育成。	区内在住・在勤約30人	NPO法人えどがわエコセンター
12	子ども体験教室	文部科学省の「子どもの居場所作り要綱」に基づき開催。	年30回 小中学生及び保護者 10～30人	NPO法人えどがわエコセンター
13	もったいない運動えどがわ区民大会(もったいない交流会)	「もったいない」の精神で、省エネやごみ減量への取り組みを進める「もったいない運動えどがわ」の締めくくりとして、1年の活動の成果を一堂に会し、発表。	年1回 もったいない運動えどがわ参加者750人	NPO法人えどがわエコセンター
14	もったいない講演会	省エネやごみ減量をテーマに講演会を開催。	年2回	NPO法人えどがわエコセンター
15	自然学習会	公園・庭園などをフィールドに樹木や生きもの等をテーマとした体験学習会。	年1回 区内在住・在勤各20人程度	NPO法人えどがわエコセンター
16	エコライフツアー	環境に関する様々な施設を見学し、企業の環境に対する取り組みがどのように行われているかを知る。	年3回 区内在住・在勤各30人程度	NPO法人えどがわエコセンター
17	エコライフセミナー (もったいない講座)	食材を使い切ることを目的とした料理教室や、出たごみの様々なリサイクルの方法を、講座・講習を通して「もったいない」の精神とともに、普及する。	年5回 区内在住・在勤各30人程度	NPO法人えどがわエコセンター
18	生ごみリサイクル講習会	家庭の生ごみを堆肥化してリサイクルするまでのプロセスを学ぶ。	年6回(2箇所×3回) 区内在住・在勤各10人	NPO法人えどがわエコセンター
19	自然観察会	観察を通して自然の大切さを感じ、環境問題への関心を深める。	年3回 区内在住・在勤各20人程度	NPO法人えどがわエコセンター
20	東なぎさクリーン作戦	ラムサール条約登録をめざして活動する団体とともに東なぎさのごみ回収・観察会を実施。	年1回 区内在住・在勤60人	NPO法人えどがわエコセンター



【自然観察会】

## (2) 事業者の環境保全活動

環境マネジメントシステムの導入は、事業者の環境配慮を促進し、その結果としてエネルギー消費量や温室効果ガス排出量の削減が期待できます。しかしながら、環境マネジメントシステムのうち ISO14001 として知られる国際規格の認証取得は、システム構築や認証取得のための費用と手間がかかり、区内に多い中小規模の事業者には負担が大きいと考えられます。

このことを踏まえ、江戸川区では「エコカンパニーえどがわ」登録制度を 2006（平成 18）年 9 月に設けました。この制度では、事業者は環境活動に取り組むことを宣言し、取り組みの内容等について審査・登録を受けることができます。中小規模の事業者に対する負担の少ない簡便な環境マネジメントシステムを構築し、運用していただくことにより、事業者の環境経営を促進しようとするものです。

2007（平成 19）年 8 月 31 日現在で、26 事業所がエコカンパニーえどがわに登録をしています。

また、「買い物袋の持参の推奨や環境に配慮した取り組みをしている店」、「資源物を店頭回収している店」を「エコストア」として登録しています。2007（平成 19）年 8 月 31 日現在で、買い物袋の持参等の取り組みを行っているエコストアが 29 店舗、資源物の店頭回収を行っているエコストアが 34 店舗となっています。（重複あり。）



【買い物にはマイバッグ】

さらに、事業系古紙のリサイクルを促進するため、「江戸川区エコ・オフィス協力会」によって、古紙の共同回収を行っています。

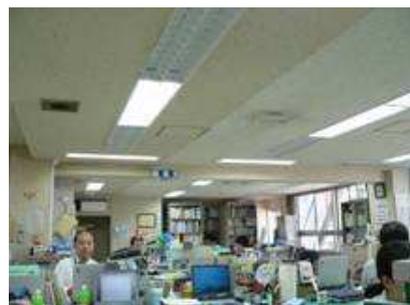
## (3) 区の地球温暖化対策

地球環境に対する責任を自覚し、一事業者としての区役所自らが行うべきことを明らかにするとともに事業活動に伴う「温室効果ガスの排出抑制すなわち地球温暖化防止」や「環境への負荷の低減」に寄与することを目的として、環境行動計画を策定しています。

現在は、2007（平成 19）年度末までの第二次計画として、「グリーン購入の推進」、「低公害車の積極的な導入」、「クールビズ、ウォームビズの実施」、「昼休みの消灯」等、様々な取り組みを行っています。

また、2006（平成 18）年度には、ハード的な対策としてエネルギーを多く使用する 15 施設について、ESCO 事業の手法を用いて省エネルギー改修を実施しました。

なお、本計画の策定に併せて、第三次環境行動計画を策定中です。



【まびいた照明】

その他、区が取り組んでいる環境保全のための事業を一覧に示します。

表 1 - 1 8 江戸川区の環境保全事業

No.	名称	概要	実施頻度
1	京成本線鉄道連続立体化の推進(交通環境の改善)	京成本線鉄道連続立体化を早期に実現することにより、踏切遮断中のアイドリング、一時停止・発進、他の道路への影響も含めた交通流動の悪化等による二酸化炭素排出の削減が図れる。	随時
2	環七シャトルバス本格運行に向けた取り組み	環七シャトルバス本格運行により、区内南北間を結ぶ基幹公共交通軸を整備する。これにより自家用自動車利用から公共交通(バス)利用への移行が図られ、二酸化炭素排出量軽減化、省エネルギー化につながる。	随時
3	区建築物の屋上緑化・壁面緑化促進	小中学校の屋上防水改修工事や保育園等の新築・改築工事に合わせて屋上緑化・壁面緑化を実施する。具体的には、北小岩保育園・松本保育園・仮称鹿骨保育園・仮称子ども未来館・仮称小松川地区心身障害者施設。	随時
4	区建築物の雨水利用の促進	保育園等の新築や改築工事に合わせて雨水利用設備の設置を検討する。具体的には、北小岩保育園・松本保育園・仮称鹿骨保育園・仮称子ども未来館・仮称小松川地区心身障害者施設。	随時
5	区建築物の太陽光発電の利用促進	保育園等の新築や改築工事に合わせて太陽光発電設備の設置を検討する。具体的には、北小岩保育園・松本保育園・仮称鹿骨保育園・仮称子ども未来館・仮称小松川地区心身障害者施設。	随時
6	区建築物の節水設備の設置促進	改修工事に際しては、今後も節水便器・自動水栓等節水設備を設置していく。	随時
7	区建築物の節電装置の設置促進	改修工事に際しては、今後も高輝度誘導灯・人感センサー等節電器具や装置を設置していく。	随時
8	保育園・共育プラザでの菜園拡充	園庭や屋上を利用した菜園で子どもたちが作物を作り、食物の大切さを学ぶとともに好き嫌いを減らしていく。	(通年)
9	焼却灰溶融スラグの使用	環境影響物品を抑制するため、一般廃棄物を再生した溶融スラグ・溶融スラグ入りコンクリート製品を使用し、循環型社会を積極的に目指す。	(通年)
10	多摩産間伐材の使用	資源の有効利用を図るため、多摩産間伐材を加工した製品を使用し、循環型社会を積極的に目指す。	(通年)
11	一之江名主屋敷の管理	緑化の推進(庭園、屋敷林、堀、屋敷畑の管理)。	通年
12	影向の松の樹木回復事業	緑化の推進(平成20年度より3年にわたり回復事業を実施する)。	通年
13	雨水貯留槽設置	雨水利用の灌水等。	2基設置
14	雨水タンクの設置	雨水を利用するため、小岩フラワーロードの花壇の水やり用にアーケードの雨水を貯めて利用できるタンクを設置。ボランティアや商店が自由に使用。	12基設置 適宜利用
15	ソーラー時計設置	太陽エネルギーの活用。	7基設置
16	園芸残土と植木鉢のリサイクル	ゴミ減量とリサイクル推進のため、家庭で不要となった園芸残土、植木鉢を引き取り園芸残土は腐葉土にリサイクル、植木鉢はイベントで展示、必要な方が再利用する。	年23回活動
17	竹と親しむ広場づくり	ゴミを出さない公園を目指し、公園ボランティア「竹と親しむ広場づくりプロジェクトチーム」が、園内から出た草や竹などを堆肥、竹細工、竹炭にするなどリサイクル活動も進めている。	年24回活動
18	草食動物の糞の再利用	草食動物(ヤギ、ヒツジ、ウラビー、レッサーパンダ)の糞を、草花栽培のため、コンポストへ投入し、堆肥化している(えどがわエコセンターと協力)。	10kg/日
19	集団回収事業	区民の資源リサイクルを通じて、省資源・省エネルギーに対する意識啓発と上質な資源の回収を行う。	通年

No.	名称	概要	実施頻度
20	環境配慮型まちづくり	景観地区や地区計画の指定により屋上緑化、壁面後退部分の緑化の推進による自然環境との調和やゆとりある環境を確保するための敷地分割の制限、建物高さの制限をルール化し、環境負荷の少ない、快適で、住み続けられるまちづくりを推進する。	随時
21	住宅等整備基準条例に基づく屋上緑化の指導	建築敷地 300m <sup>2</sup> 以上の共同住宅等で屋上部分に出入り及び利用可能な面積の20%の緑化を義務付けている。	随時
22	生垣緑化の誘導	地区計画で生垣緑化を誘導するとともに、壁面緑化、屋上緑化、カーポートの緑化なども取り入れる。	随時
23	優良建築物等整備事業	環境配慮項目(緑化、壁断熱、複層ガラス、二重サッシ等の使用)の充足を条件に補助採択を行う。	随時
24	総合設計の許可	環境配慮項目(緑化、雨水利用、保水性舗装、ソーラー照明等の使用)の充足を条件に許可を行う。	随時
25	再開発事業における環境配慮計画	再開発事業推進にあたり、環境配慮計画(例:水と緑あふれるまちづくり、省エネ設計等)の策定を進める。対象地区:JR小岩駅周辺地区、京成小岩地区。	随時
26	省エネルギー講習会	区内事業者を対象に省エネや経費削減のための省エネルギー講習会を行う。	年1回
27	環境フェア	地球温暖化問題やもったいない運動などを区民に情報提供しながら、環境の大切さを楽しみながら学ぶイベントを行う。	年1回
28	環境をよくする絵画・作文コンクール	区内の小・中学校を対象に環境をよくする運動の推進に役立つポスター・作文を募集し、優秀作品を表彰する。	年1回
29	もったいない運動えどがわ区民大会	えどがわエコセンターと協働して、もったいない運動を推進し、優れた事例を表彰するとともに、成果発表により運動の拡大を図る。	年1回
30	エコカンパニーえどがわ	区内事業者を対象にえどがわエコセンターと協働で、環境にやさしい事業場づくりを推進している。平成19年度中に登録100件を目指す。 事業者対象に環境保全・省エネ等の取り組みの実施について同制度を普及・啓発し、間接的に区の省エネにつなげる。	随時
31	区立小中学校における環境教育	環境に関わる問題についての多様な経験や基本的な理解を獲得し、環境に関する価値観や思いやり、環境保護と環境改善に主体的に取り組む意欲を育てる。省エネ、リサイクル、自然・ビオトープ体験、堆肥づくり・農園体験等。	通年
32	グリーンプラン推進校	NPO法人えどがわエコセンターがグリーンプラン推進校を指定し、学校の特徴を生かした、学校壁面緑化、自然観察、地域清掃活動を行なう。	通年
33	水と緑の区民カレッジ講座「腐葉土づくり講座」	みどりのリサイクルの実践と啓発のため、「落ち葉はゴミではない」をスローガンに、公園の落ち葉を利用した腐葉土づくりを区民に指導、体験してもらう。	5ヶ月間 (年1回)
34	「ワンコイン腐葉土販売」	ゴミ減量とリサイクル推進のため、花の祭典、区民まつり、地域まつり等で、公園の落ち葉とボニーの馬糞を混ぜた馬糞発酵腐葉土を、10円100円で販売。	年23回活動



## 1-3 区民・事業者の意向

アンケートによって、区民・事業者ともに、地球温暖化への関心が高いことがわかりました。この関心の高さとあいまって、多くの区民や事業者が省エネルギー行動に取り組んでいることがわかりました。また、新エネルギーについては、太陽光発電などを除いて、知らないという回答も多く、区内での導入も進んでいないことがわかりました。江戸川区が、これからの取り組みの中心に据えている「もったいない運動」については、認知度は15%程度と低かったものの、「関心がある」という回答が多く、周知を進めていくことで「もったいない運動」が拡大していくと考えられます。

### 1-3-1 アンケート調査概要

江戸川区内の区民及び事業者の地球温暖化防止への意識を把握するため、アンケート調査を実施しました。

調査の概要を以下に示します。(表1-19)

表1-19 アンケート調査概要

項目	内容
調査時期	平成19年7月～平成19年9月
調査対象者	江戸川区内の区民：1,500名 宛先不明：8名 江戸川区内の事業者：500事業者 宛先不明：4事業者
抽出方法	無作為抽出
回収数(回収率)	区民：429(28.8%) 事業者：225(45.4%)

### 1-3-2 アンケート結果のまとめ

アンケート結果のまとめ(区民、事業者)を以下に整理します。

#### (1) 区民

地球温暖化に対する関心度

I. 地球温暖化に対する関心度は、重要と考えている割合が高い。

新エネルギーの認知度、取り組み状況

I. 新エネルギーの認知度は、太陽光や太陽熱発電、クリーン自動車などの認知度が高いが、バイオマスや温度差エネルギー、天然ガスコージェネレーションなどの認知度は低い。

II. 新エネルギーの利用度は、利用している割合が低い。

III. 新エネルギー利用者が最も多く利用しているのは太陽熱で、次いでクリーン自動車となる。

IV. 新エネルギーを利用しない理由は最も多いのが、共同住宅のためであり、次いで費用の高さ、内容を十分知らないためとなっている。

#### 省エネルギー行動の取り組み状況

- I. 省エネルギー行動は、こまめに消灯、シャワーを流しっぱなしにしない、洗濯のまとめ洗いなどの実施率が高いが、料理の下ごしらえに電子レンジを使用する実施率は低い。

#### 緑化や雨水利用の取り組み意識

- I. 緑化や雨水利用などへの取り組みの意識は低い。

#### 必要と考える対策

- I. 必要な対策は、ごみの減量・リサイクルの推進、地球温暖化情報の充実の割合が高い。

#### もったいない運動えどがわの認知度、参加意識

- I. 「もったいない運動えどがわ」の認知度は低い。
- II. 「もったいない運動えどがわ」を知っている人の参加状況は低いですが、参加したいという意向は高い。
- III. 「もったいない運動えどがわ」を知らない人の関心度は高い。

## (2) 事業者

#### 地球温暖化に対する関心度

- I. 地球温暖化に対する関心度は、重要と考えている割合が高い。

#### 新エネルギーの利用度、取り組み状況

- I. 新エネルギーの利用度は、利用している割合が低い。
- II. 新エネルギー利用者が最も多く利用しているのはクリーン自動車で、次いで太陽熱、太陽光となっている。
- III. 新エネルギーを利用しない理由で最も多いのが、費用が高いからであり、次いで内容を十分に知らない、建物の所有権がないためとなっている。

#### 省エネルギー行動の取り組み状況、自己評価

- I. 省エネルギー行動の実施状況は、ごみの分別回収、封筒やファイルの再利用、アイドリングストップ、エコライブなどの実施率が高く、省エネOA機器の購入や低公害車の購入などの実施率は低い。
- II. 省エネルギー行動の取り組み評価は、できるだけ取り組んでいるという自己評価が高い。

#### 緑化や雨水利用などへの取り組み意識

- I. 緑化や雨水利用などへの取り組みの意識は低い。

#### 必要と考える対策

- I. 必要な対策は、地球温暖化情報の充実、ごみの減量・リサイクルの推進、新エネ・省エネへの助成や貸付制度の実施が高い割合を示している。

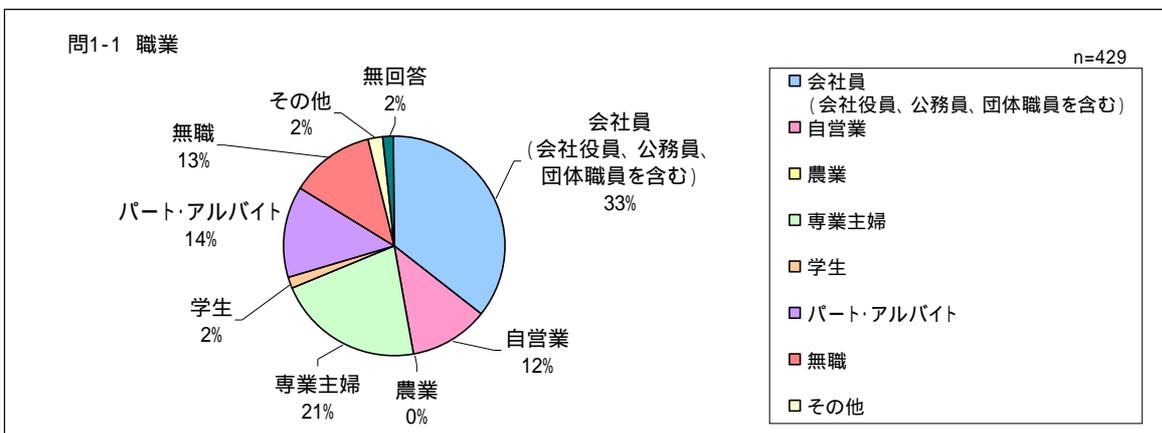
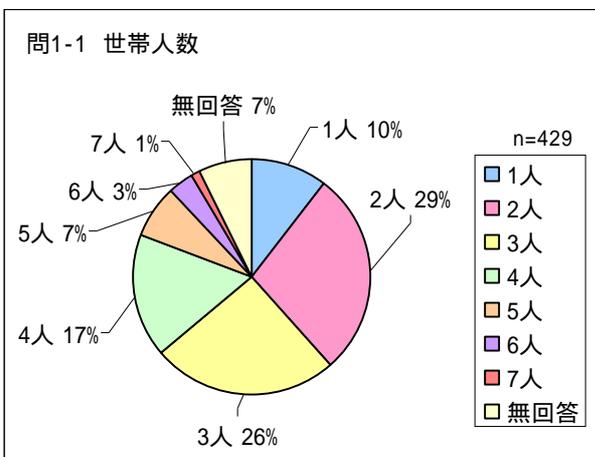
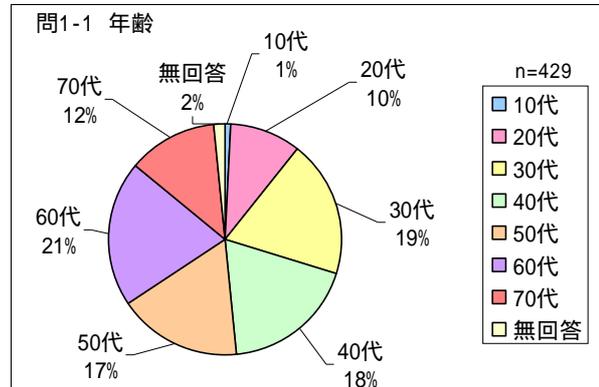
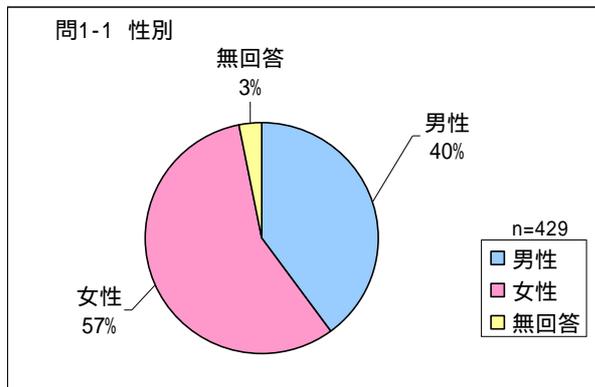
#### もったいない運動えどがわの認知度、参加意識

- I. 「もったいない運動えどがわ」の認知度は低い。
- II. 「もったいない運動えどがわ」を知っている事業者の参加状況は低いですが、参加したいという意向は高い。
- III. 「もったいない運動えどがわ」を知らない事業者の関心度は高い。

### 1-3-3 アンケート結果（単純集計）

#### (1) 区民

##### 属性

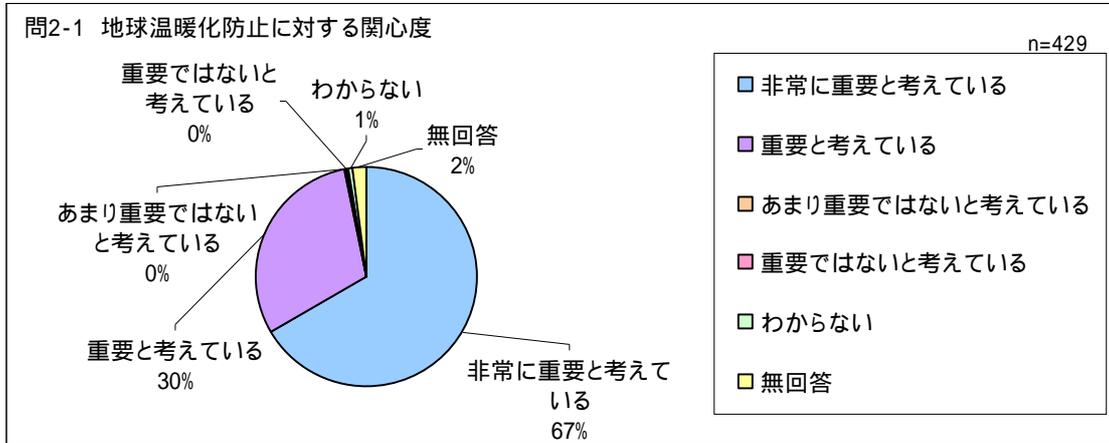


注) グラフ内に記載している「n」は、各設問に対する「回答者数」を意味する。(全グラフに該当)

## エネルギーに対する取り組みについて

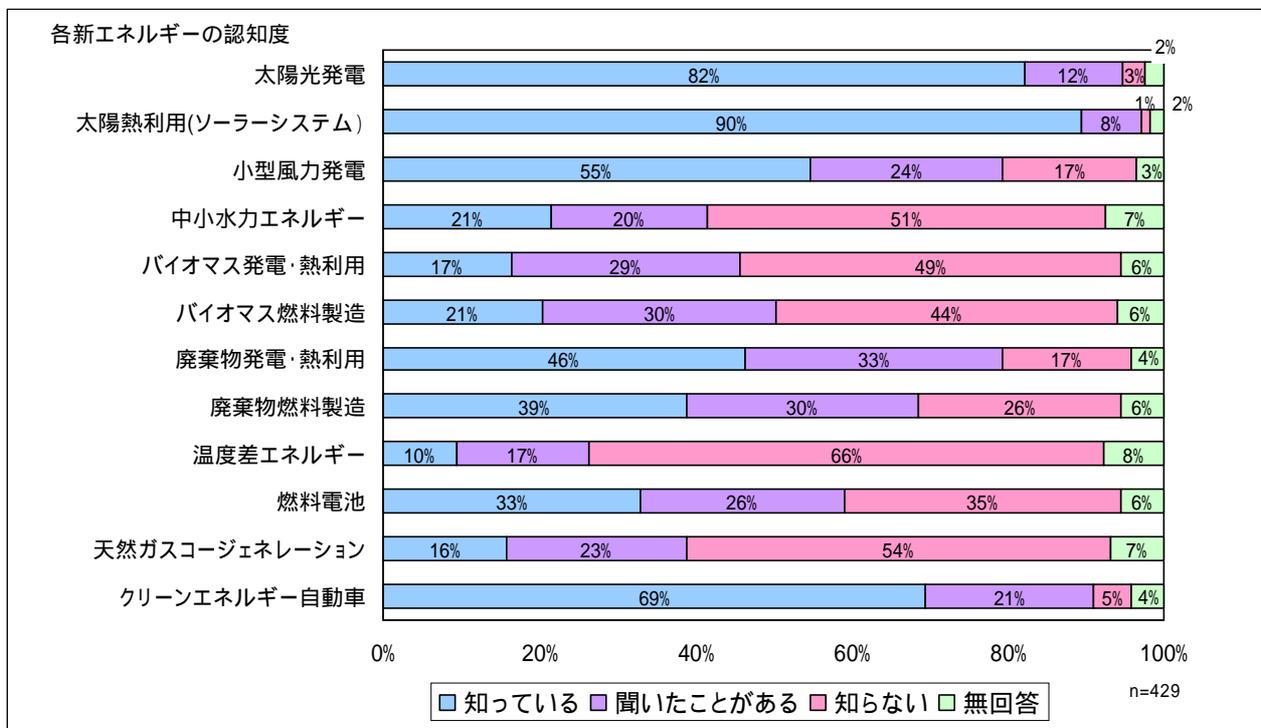
- 地球温暖化防止に対する関心度

地球温暖化防止については、ほぼ 100%の区民が重要と考えており、地球温暖化に対する意識が高いと考えられます。



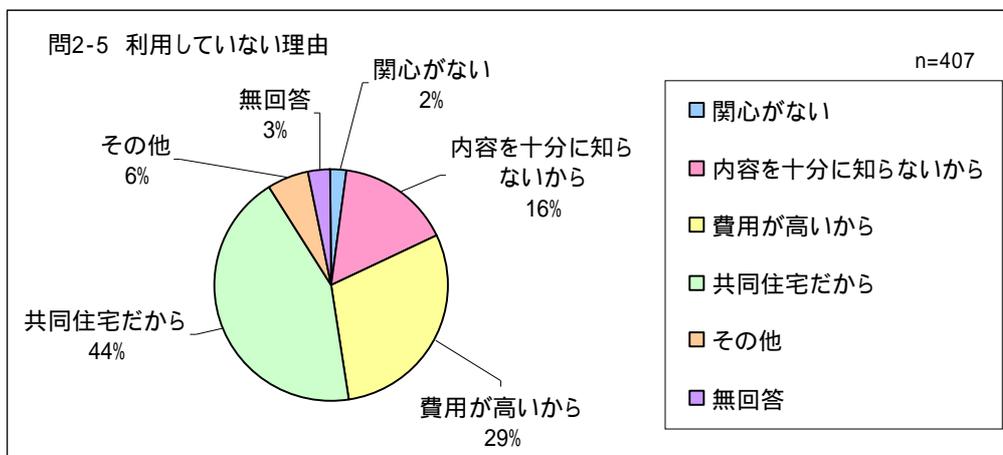
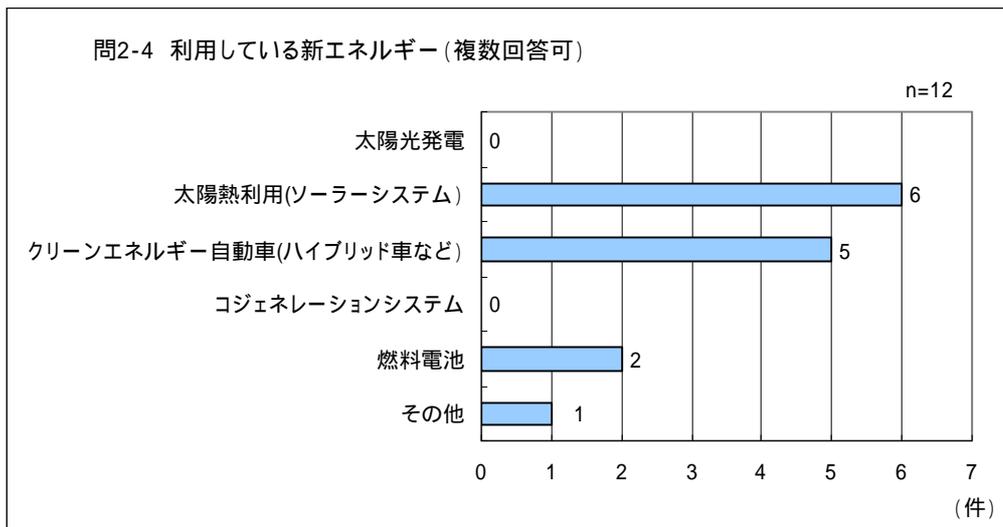
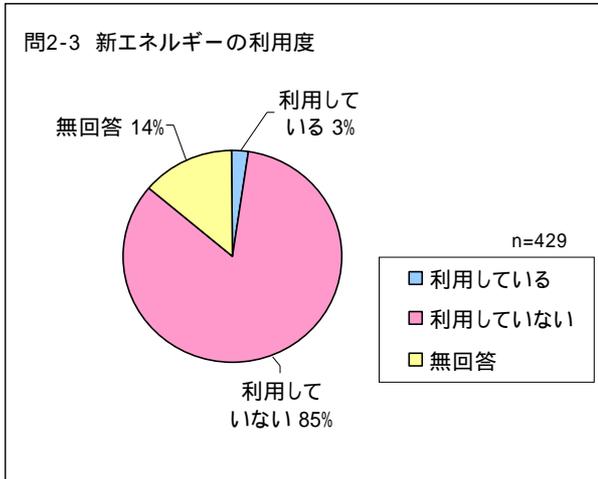
- 新エネルギーの認知度

太陽光発電や太陽熱利用、クリーンエネルギー自動車の認知度が高くなっています。一方で、温度差エネルギーやバイオマス発電・熱利用、天然ガスコージェネレーションなどの比較的新しい分野の新エネルギーの認知度が低くなっています。



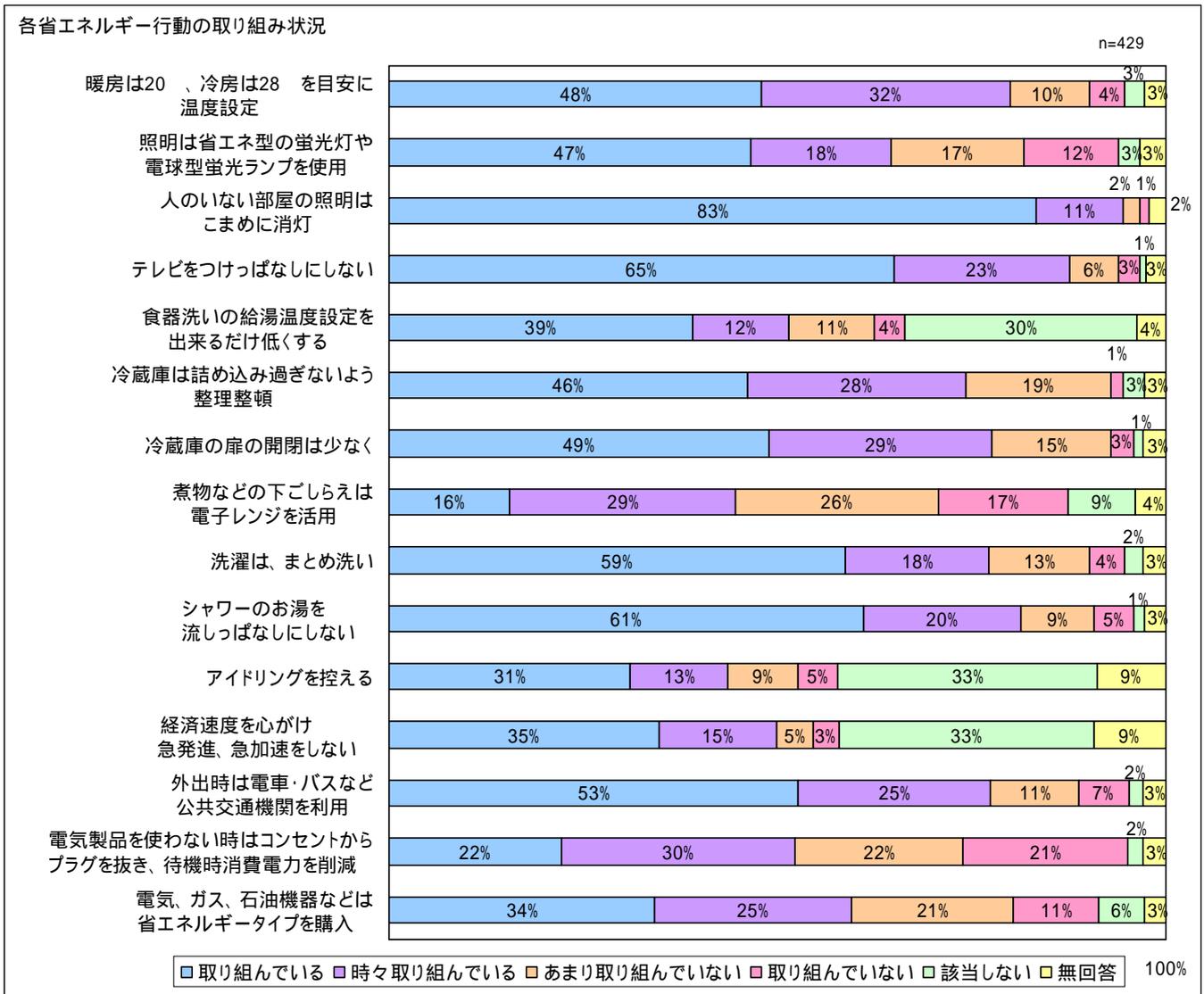
● 新エネルギーの利用度

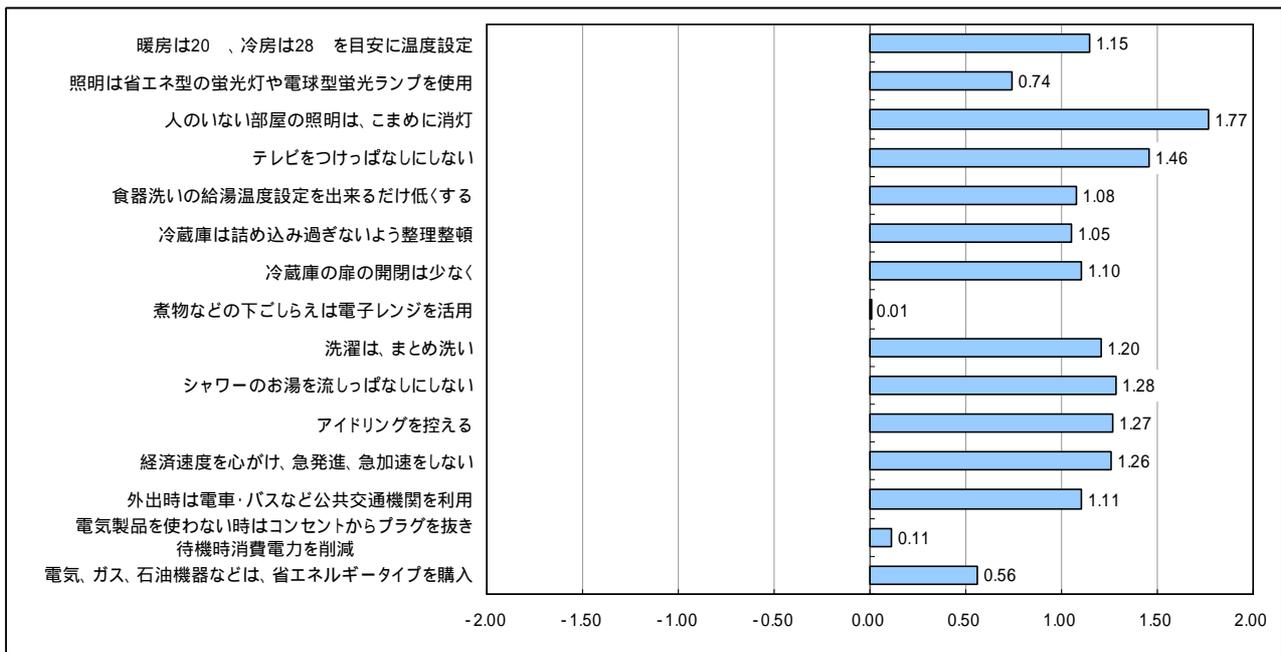
新エネルギーの利用度は3%で、太陽熱利用、クリーンエネルギー自動車  
が導入されています。利用していない理由としては、共同住宅であることが最も  
多く、次いで費用が高いためとなっています。



● 省エネルギー行動の実施状況

省エネルギーの取り組み状況は、部屋の電気をこまめに消灯やテレビのつけっぱなしをしない、シャワーのお湯を流しっぱなしにしないなどの取り組み割合が高くなっています。一方で、煮物などの下ごしらえに電子レンジを活用や待機電力の削減などの取り組み割合は低くなっています。



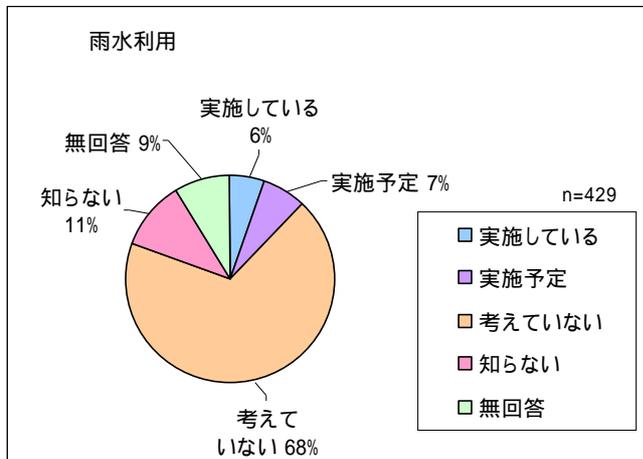
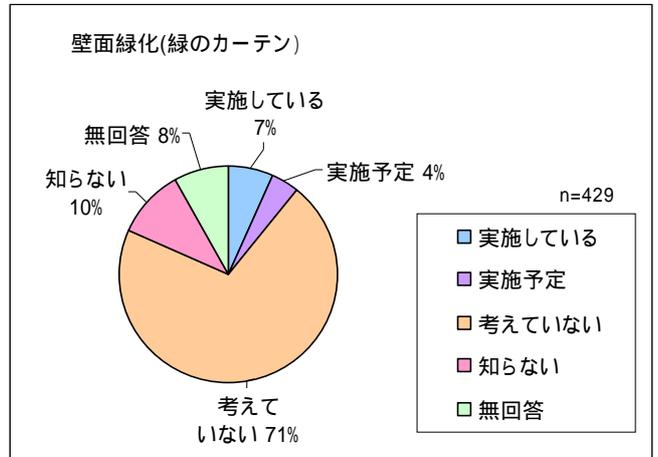
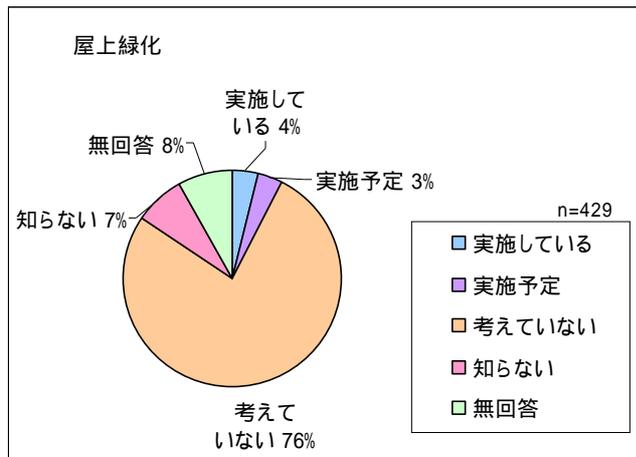


【省エネルギー行動の取り組み状況の比較】

取組んでいる(+2)、時々取組んでいる(+1)、あまり取組んでいない(-1)、取組んでいない(-2)として重み付けをして平均点を算出。点数が高いほど取り組み状況がよく、点数が低いほど取り組み状況が悪くなります。

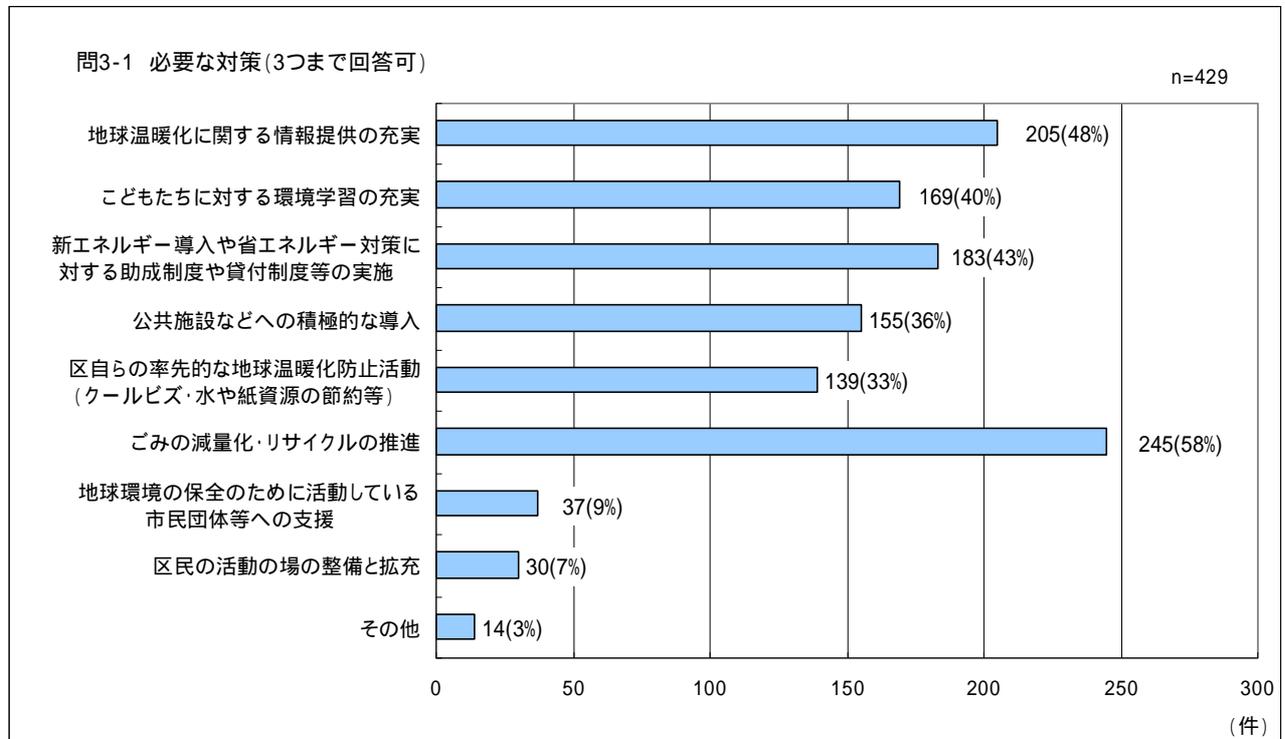
● 家庭での緑化や雨水利用の取り組み状況

屋上緑化 4%、壁面緑化 7%、雨水利用 6%となっています。



### 必要な対策について

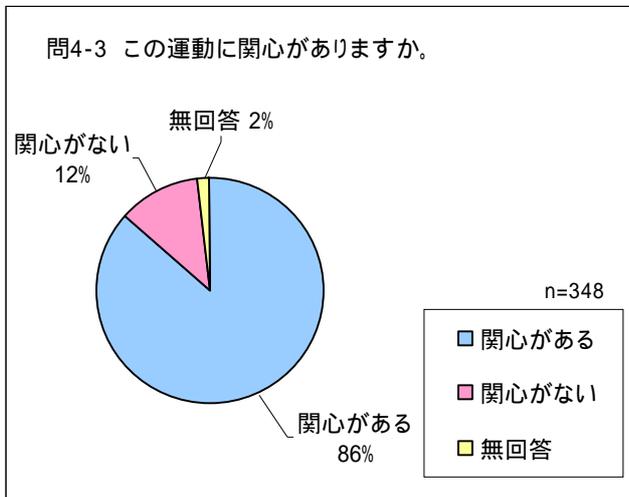
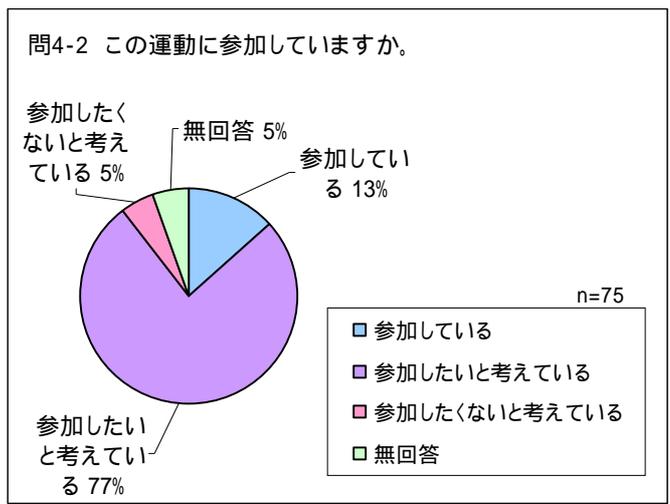
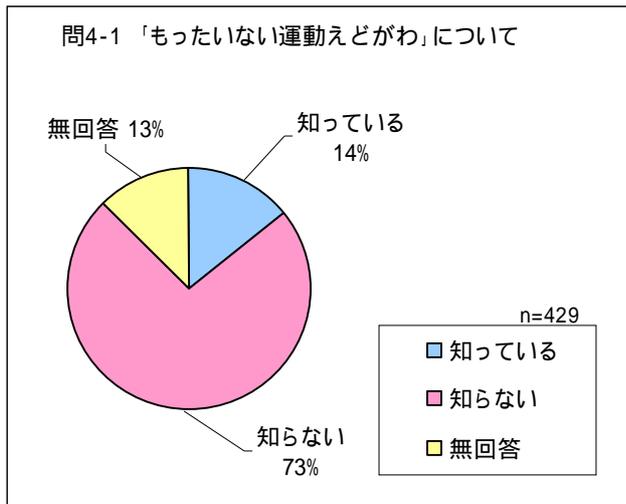
必要な対策としては、ごみの減量化やリサイクルが最も多く、次いで、地球温暖化に関する情報提供の充実や新エネルギー導入や省エネルギー導入対策に対する助成制度等の実施となっています。



「もったいない運動えどがわ」について

● 「もったいない運動えどがわ」の認知度

「もったいない運動えどがわ」は、14%が知っていて、そのうち13%が参加しているとなっています。「もったいない運動えどがわ」を「知らない」と答えた区民の86%は、「関心がある」と答えたことから、周知を進めることで、「もったいない運動えどがわ」の運動の拡大を図ることができると考えられます。



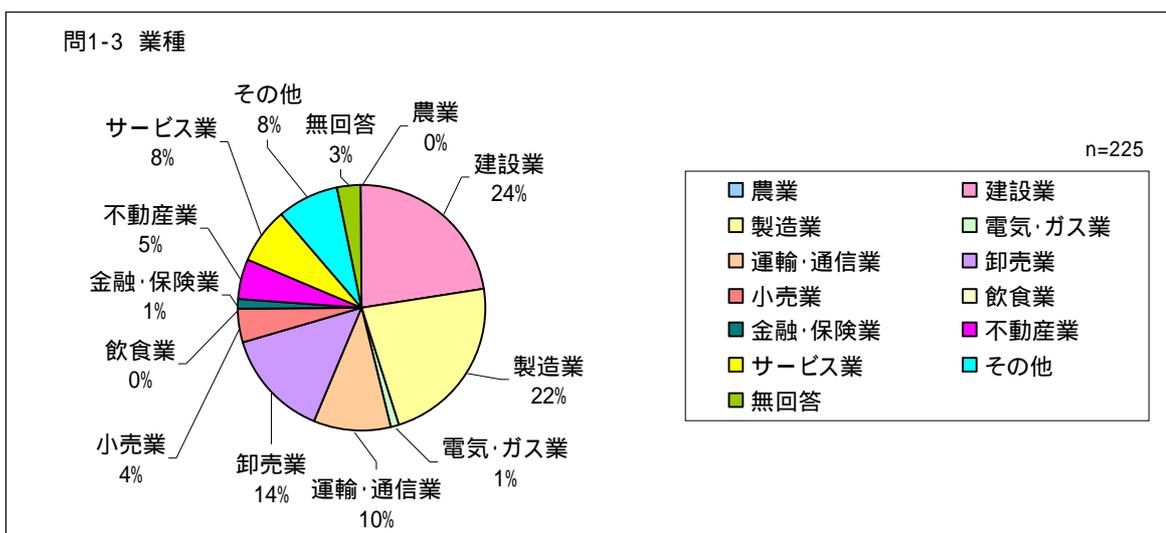
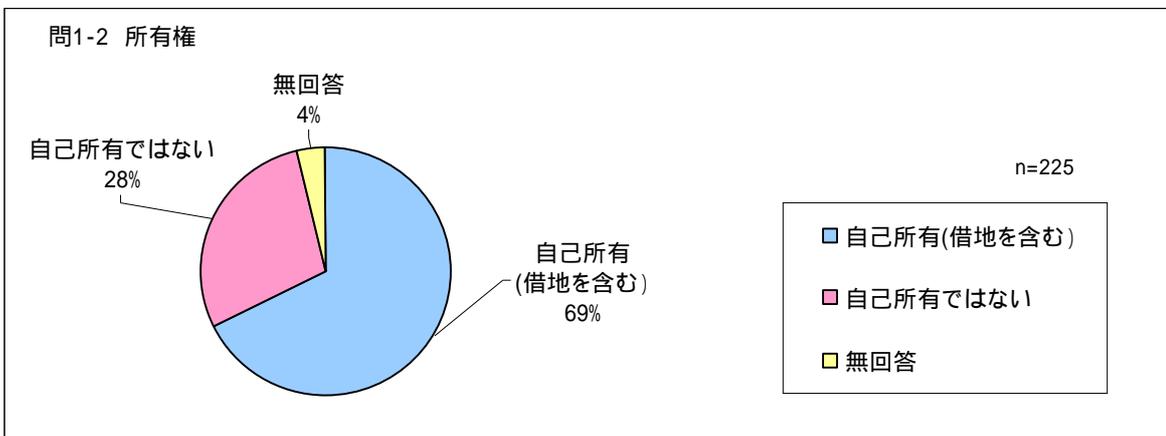
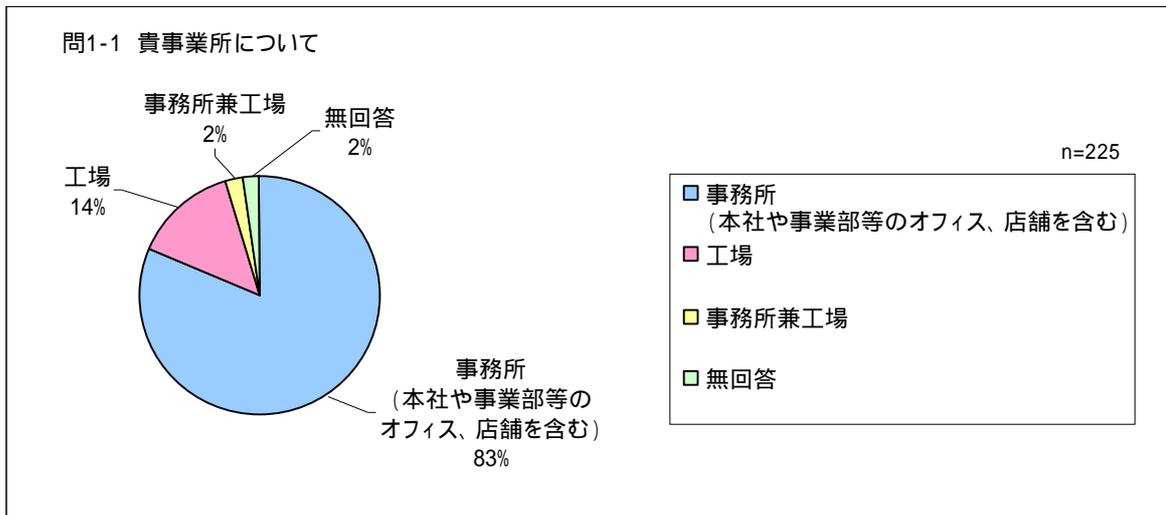
自由意見

項目	内容
<p>対策提案 (省エネルギー)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冷房、暖房をひかえる。</li> <li>・自転車利用の推進、一般道路の遊歩道化。</li> <li>・アイドリングストップの徹底。</li> <li>・エコ協力企業、施設は税金を安く。</li> <li>・カーシェアリングを導入。</li> <li>・皆が少しずつ不便を共有出来るようになれば良い。</li> <li>・手軽に気軽に取り組めるようなアイデアを区に期待します。</li> <li>・公共的な交通をできるだけ使うようにしたい。</li> <li>・家電等の買い替えに対する助成金なども必要。</li> <li>・公共施設や役所等の冷暖房温度の見直し。</li> <li>・自転車を推進する(駐輪場の整備、自転車道等)。</li> <li>・公共交通機関の充実。</li> <li>・エコバッグはもちろん、マイ箸の使用、緑を増やす、小道のアスファルトをはがして昔の土にする。</li> <li>・区自身がもっと率先して行うべきである(温暖化防止について)。</li> </ul>
<p>対策提案 (新エネルギー)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・太陽光発電等の新エネルギー導入に対する助成制度の早期実施。</li> <li>・クリーンエネルギー 自動車の普及の活動。</li> <li>・(大型)風力電気。葛西沖、江戸川沖に風力発電が良いと思う。公園の灯り、外灯を光エネルギー。</li> <li>・学校の校舎に太陽光発電を設置。</li> </ul>
<p>対策提案 (ごみ・リサイクル)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生ごみを処理する機械を一家に一台置くべきです。</li> <li>・ごみの分別減量化(なるべく再利用) スーパー等の袋は有料。</li> <li>・店舗の協力によるリサイクルの推進。</li> <li>・ポイントカード・クーポン券などを発行、あるいはエコバッグ利用などの該当者を対象とした割引サービスの強化など。</li> <li>・大型家具や子ども用品などのリサイクルセンターを設けて欲しい。</li> <li>・不用品を回収、修理などして展示販売。</li> <li>・店の商品の簡易包装(2重のパックや皿は不要)の徹底。</li> </ul>
<p>対策提案 (緑のまちづくり)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・木を植えて緑化し、木の葉の影で涼しいと思う街づくり。</li> <li>・条例により、住む環境・地球環境を考えた街づくり。</li> <li>・海に近い葛西地区にあまり高い建物を建てないように風の通る緑の道を南北に作る。</li> <li>・水路・地下水路をめぐらす。緑化促進。アスファルトをやめて土に戻す。</li> <li>・「優良企業」として表彰をする。</li> <li>・公園や学校施設等の緑化(芝生等)。</li> </ul>

項目	内容
<p>対策提案 (その他)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの教育が一番大切。</li> <li>・地球温暖化防止には人間一人一人の意識改革が必要。小・中・高校などでも子どものうちから教育が必要。</li> <li>・地球温暖化に関する情報の PR。その防止策の具体的な運動・手段等の PR。</li> <li>・小・中学校で「エコ」の授業の取り組み、校外学習。</li> <li>・雨水利用の情報提供、装置設置への助成。</li> <li>・昼間働いている人たちにも「エコタウンえどがわ推進計画」が解るよう、又、参加できるような配慮。</li> <li>・各種取り組みについて何らかの数値目標を設定。</li> <li>・やれることから全員参加型で取り組む地域や国にするよう、広報活動が重要と思います。</li> </ul>
<p>意見・感想</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画 実行 結果はどうなったかをまとめる。ということを大事にする。</li> <li>・「江戸川区」だけじゃなく、他の地域との連携を…。</li> <li>・原子力発電は危険が多い。原子力発電のコストは大きいのではないか。</li> <li>・区全体のエネルギー消費量の内訳の把握(会社も含めて)。適切な条例制定のもと、行政指導を行う。</li> <li>・一般家庭における省エネ活動が実際区全体の省エネにどれ程の貢献があるのだろうか、きちんと数字にする必要がある。</li> <li>・区民一人一人が参加できる、江戸川区がモデルになるような環境づくりや運動を発信してください。</li> <li>・親と一緒に教育することが重要。</li> <li>・具体的にどのようなことから始めたいのかわからない。区民レベルでできることなど例を挙げていただきたい。</li> </ul>

## (2) 事業者

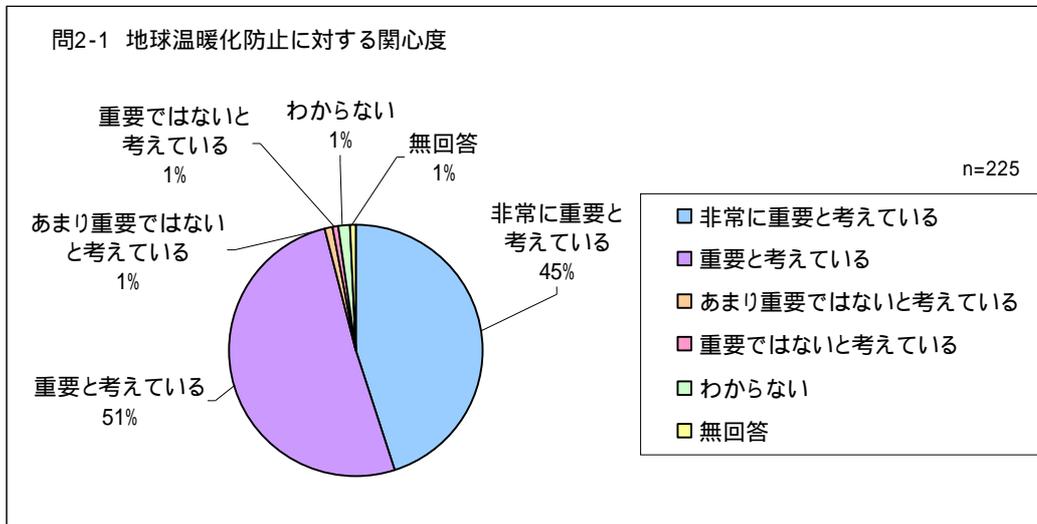
### 事業所について



## エネルギーに対する取り組み

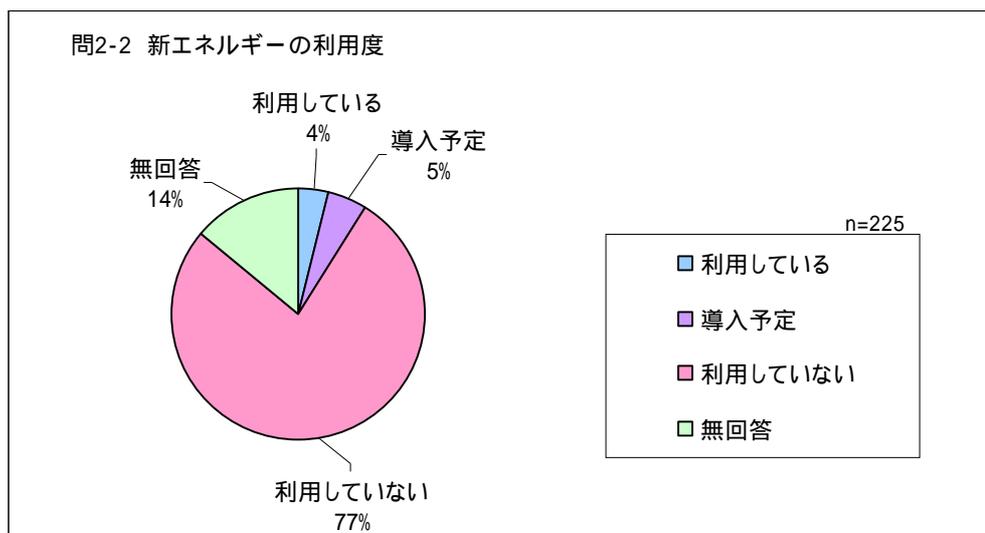
- 地球温暖化防止に対する関心度

地球温暖化防止については、ほぼ 100%の事業者が重要と考えており、地球温暖化に対する意識が高いと考えられます。

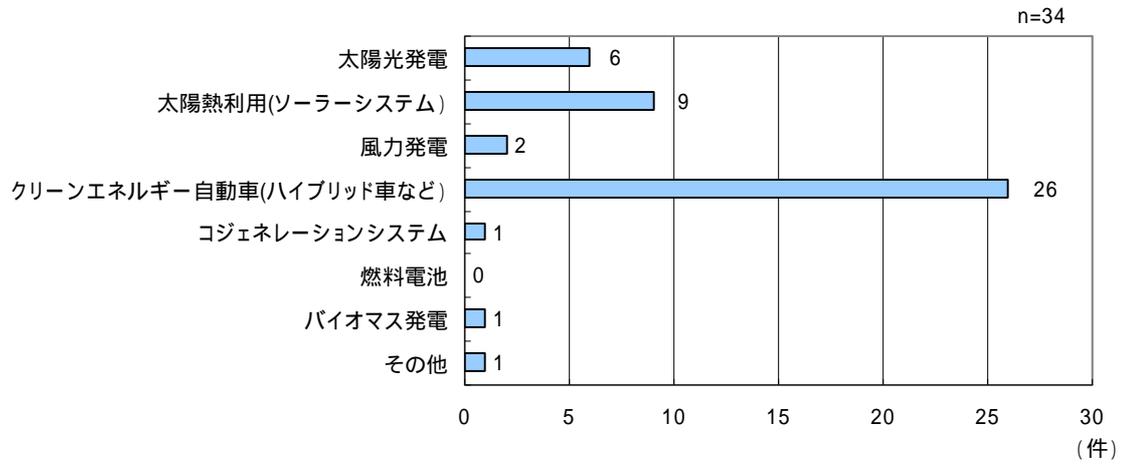


- 新エネルギーの利用度

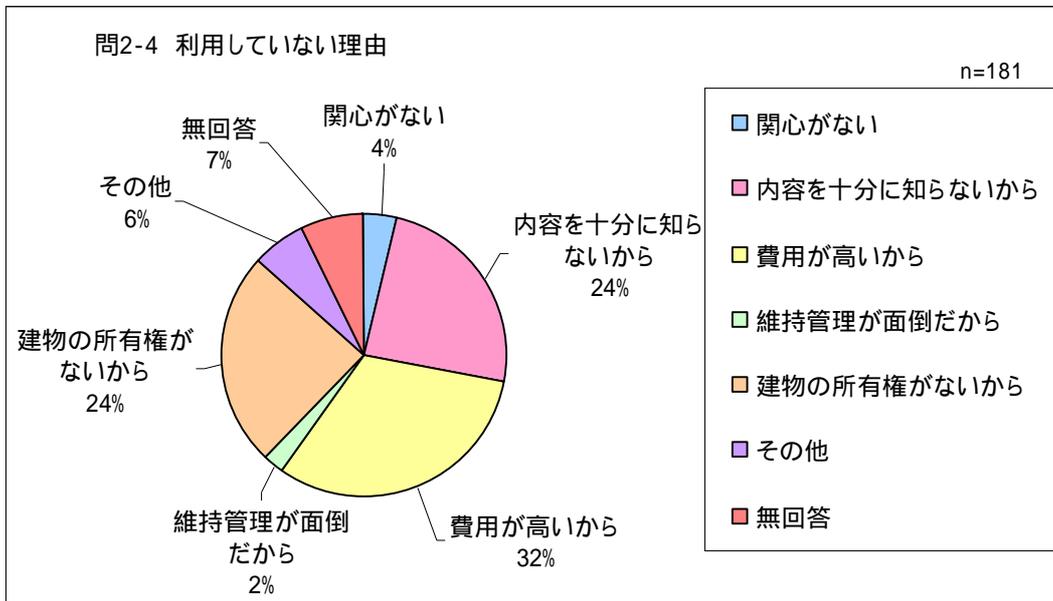
新エネルギーの利用度は 4%で、クリーンエネルギー自動車、太陽熱利用、太陽光発電が導入されています。利用していない理由としては、「費用が高いから」が最も多く、次いで「内容を十分に知らないから」、「建物の所有権がないから」となっています。



問2-3 利用(予定)している新エネルギー(複数回答可)

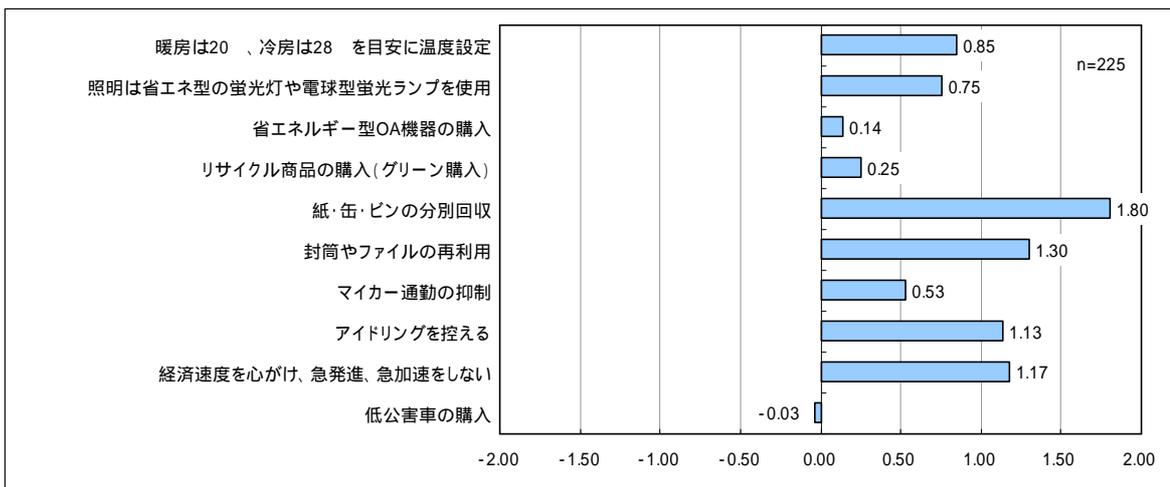
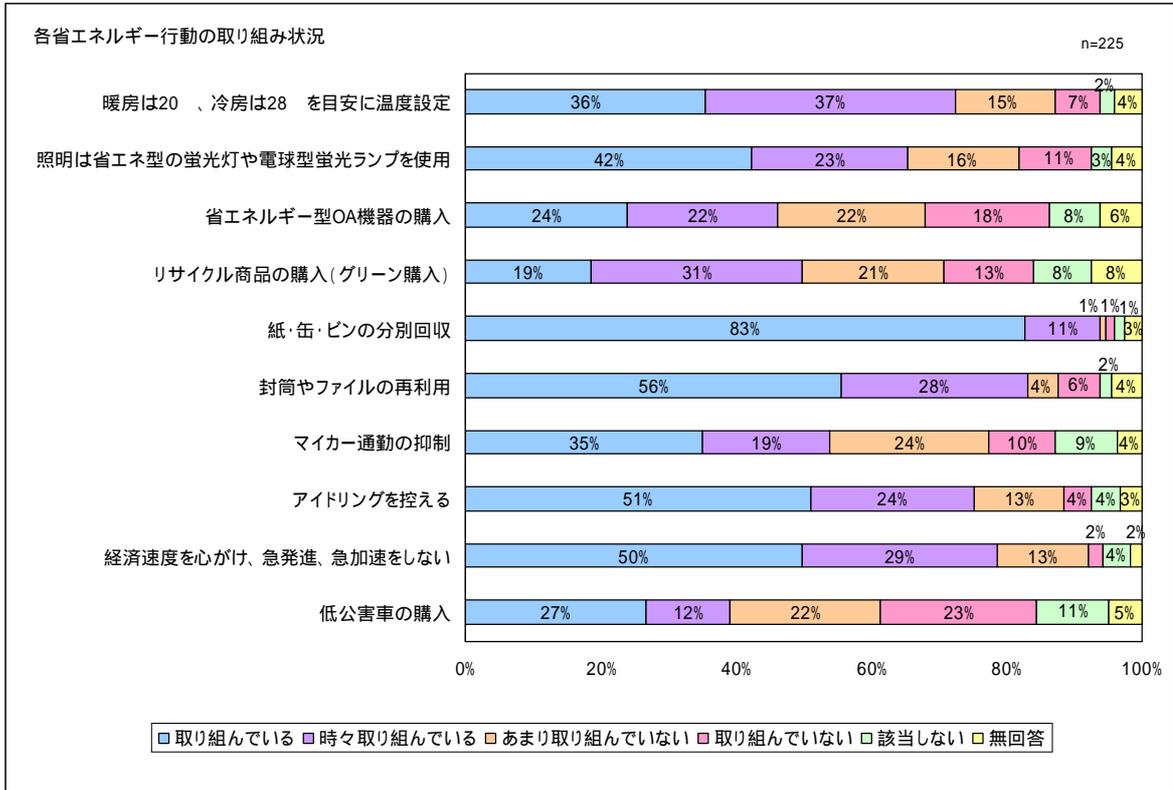


問2-4 利用していない理由



● 省エネルギー行動の実施状況

省エネルギーの取り組み状況は、紙・缶・ビンの分別回収、封筒やファイルの再利用、エコドライブの実践などの取り組み割合が高くなっています。一方で、低公害車の購入や省エネルギー型 OA 機器の購入、リサイクル商品の購入などの取り組み割合は低くなっています。

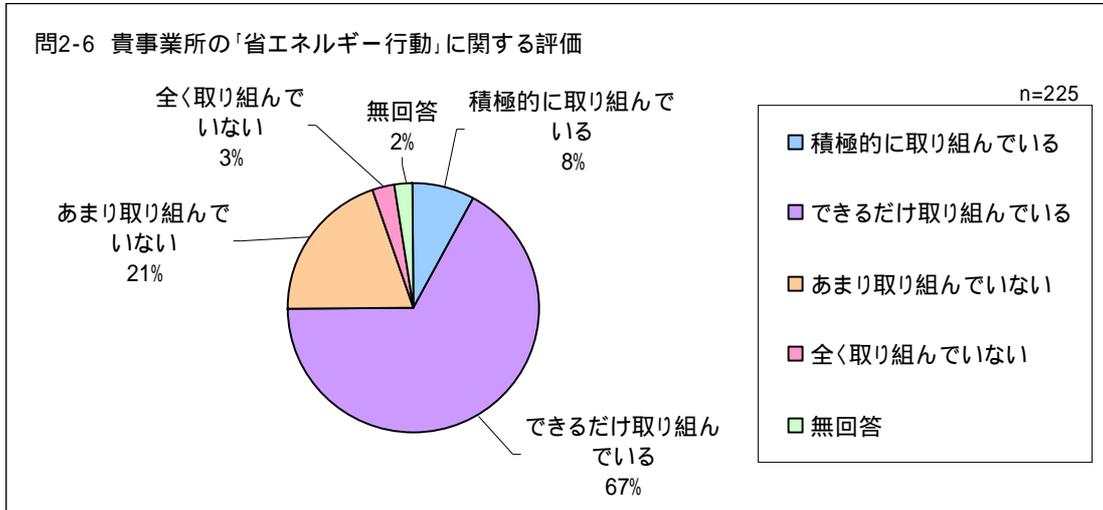


【省エネルギー行動の取り組み状況の比較】

取り組んでいる(+2) 時々取り組んでいる(+1) あまり取り組んでいない(-1) 取り組んでいない(-2)として重み付けをして平均点を算出。点数が高いほど取り組み状況がよく、点数が低いほど取り組み状況が悪くなります。

- 省エネルギー行動の取り組み評価

省エネルギー行動の取り組みについては、多数の事業者ができるだけ取り組んでいると評価しており、省エネルギー行動に対する事業者の意識は高いと考えられます。

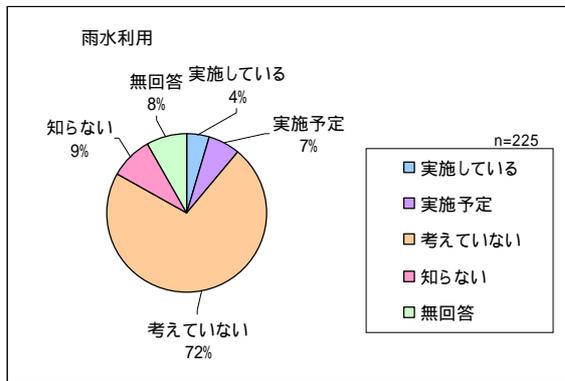
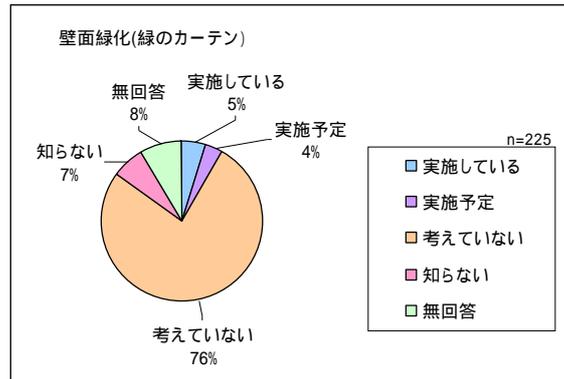
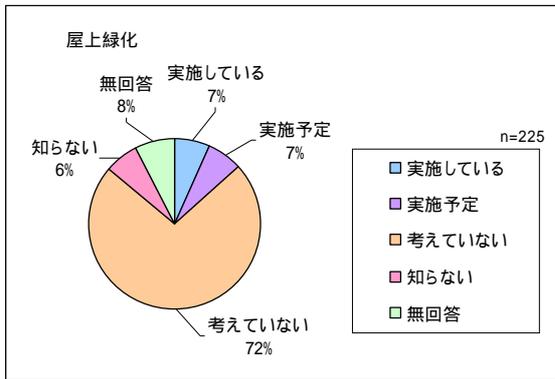


【省エネルギー行動に取り組んでいない理由（自由記述回答）】

- ・ 方法、費用、効果、認識不足。
- ・ 面倒、不便。
- ・ そこまで気がまわらない。
- ・ コストの問題。
- ・ 当事業所の利にそぐわない。
- ・ 積極的ともできるだけともいえないので。重要性は感じていますが…。
- ・ 考える余裕がない。
- ・ 簡単に出来る事のみ。サービス業なので冷暖房などは取り組めない。暖房 20 は寒い、冷房 28 は暑いので快適ではない。
- ・ よくわからない。
- ・ 仕事内容があまり関係ないため。
- ・ 個々では関心を持っていると思うが、会社全体では費用の面等で、積極的に取り組んではいない。
- ・ 取り組み方がわからない。
- ・ 当社は事務所のみなので省エネルギーは電気(照明、クーラー)等のみなので。
- ・ コストがかかる。
- ・ 小さな事務所なので考えていなかった。
- ・ 経営者が関心を持っていない。
- ・ 現在使用の物が壊れたら購入時に考える。
- ・ 取り組むゆとりがない。
- ・ 事務所が小さく省エネ効果がないと思っている。
- ・ 小規模な事務所であり使用エネルギーも少ないので、あまり気にかけていなかった。事務員 4 名、約 20 m<sup>2</sup>のフロアです。
- ・ 現地作業なので行動が起こせない。
- ・ 仕事の内容がエネルギーを多量に使用することがない。

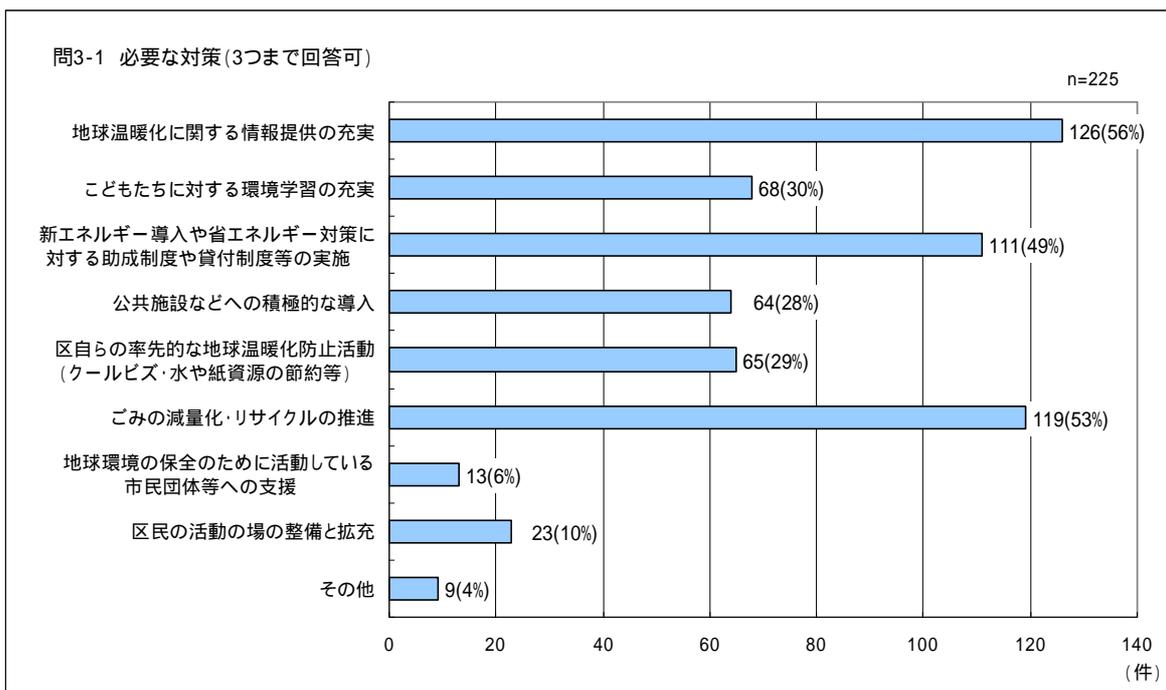
● 事業所での緑化や雨水利用の取り組み状況

屋上緑化 7%、壁面緑化 5%、雨水利用 4%でした。



必要な対策について

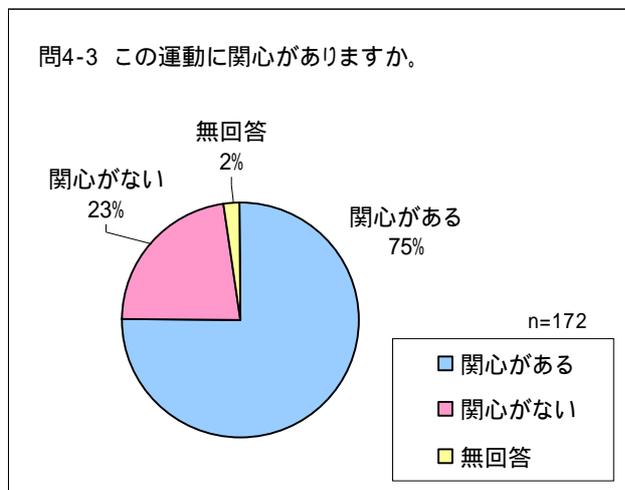
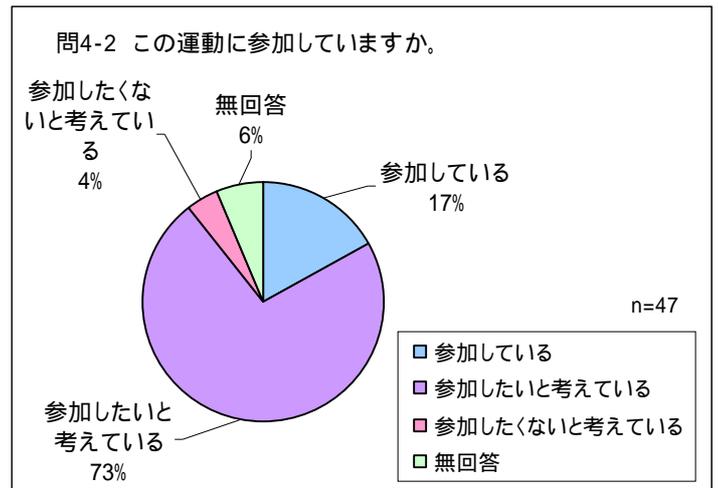
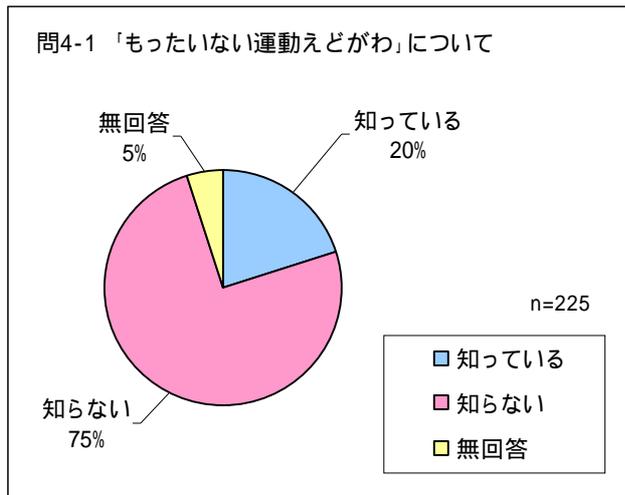
必要な対策としては、地球温暖化に関する情報提供の充実が最も多く、次いで、ごみの減量化やリサイクル、新エネルギー導入や省エネルギー導入対策に対する助成制度等の実施となっています。



「もったいない運動えどがわ」について

● 「もったいない運動えどがわ」の認知度

「もったいない運動えどがわ」は、20%が知っていて、そのうち17%が参加しているとなっています。「もったいない運動えどがわ」を「知らない」と答えた事業者の75%は、「関心がある」と答えたことから、周知を進めることで、「もったいない運動えどがわ」の運動の拡大を図ることができると考えられます。



自由意見

項目	内容
<p>対策提案 (省エネルギー)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区自身がクールビズを区民へ強く奨励すべき。</li> <li>・議員等の自動車での交通手段の自粛、排気量の規制(3ナンバーは控える)。</li> <li>・店の深夜までの又は24時間営業の規制等。</li> <li>・事業所に於けるエアコンの設定温度、服装(クールビズの推奨)等の意識を高めるため呼びかけ。</li> <li>・環七シャトルバスのような公共の乗り物があれば、マイカー利用率が大幅に減ると思う。</li> </ul>
<p>対策提案 (新エネルギー)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大型風力発電を推進。</li> <li>・駅や公共機関などの場所にミスト散布を行う。</li> <li>・中小水力発電、温度差エネルギーは、荒川と旧江戸川にはさまれた立地からして導入しやすい。</li> <li>・排熱のエネルギーを上手く回収し、発電に利用できたらと思う。</li> <li>・役所の車の削減とエコカー(電動及びハイブリット)に替える。</li> </ul>
<p>対策提案 (ごみ・リサイクル)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ショッピングバッグの廃止、梱包の簡素化。</li> <li>・もっとこまかい分別回収。</li> </ul>
<p>対策提案 (緑化のまちづくり)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区として屋上緑化、壁面緑化の推進依頼や補助制度、募金制度などの働きかけをする。各企業の環境活動をつなぐ役割を区に期待したい。</li> <li>・木を植える。木陰が増える。(木が二酸化炭素を吸収して大きくなる)温度がさがる。エアコンを使わなくなる。</li> <li>・公的な土地全てに常緑樹を植えるべき。</li> <li>・電柱を埋設し、街路樹を増やす。</li> <li>・マンションの屋上緑化の強化。</li> </ul>
<p>対策提案 (その他)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これをこうしたらこうなると具体的に提起してほしい。努力目標を示してくれると参考になる。具体的に例示してほしい。</li> <li>・区は区民の意識を高め、活動態勢に入るための動機付けをしっかりと高めることが必要。</li> </ul>
<p>意見・感想</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政並びに区民一体で今後取り組んでいくべき最重要課題ということを理解し、結果を確実に出していくべき。</li> <li>・一人一人が小さなエコ運動をする事で、大きな節約につながる。</li> <li>・大国(中国、米国等)がその気にならなければ無理。</li> <li>・江戸川区及び区民一人一人がこのことについて他区に先駆けて取り組み、東京都全体で実行に移し、やがて日本として全世界の国々に波及させ、リードしてゆく位になれば良い。</li> </ul>